本社

9年10月
791

著 松浦次郎

定收入者の金錢活用

千圓以上溜めるまで

定價 8錢

東京 廣文堂書店 發行

自序

歐洲大戰の渦中に投込まれた我が國は各種の方面に大なる打撃と、刺激と、教訓とを受けたが、就中其の最も大なるものは經濟界である。卽ち嘗てはいつも入超で困つてゐた我が國の貿易が、大戰の爲に每に出超勝ちとなり、隨つて巨額の黃金が流入した。豫想外なる黃金の流入はやがて諸物價を暴騰せしめたけれども、一般國民の收入は之に伴はずして、國家の中堅たるべき中流家庭は之がために頗る生活難に苦しんだのである。生きねばならぬ

以上は法外に高い米も食はねばならず、馬鹿に高い着物も纏はねばならず、厭でも高い屋賃の家屋に住まねばならぬ。

世人は饑饉相場のやうな高い物價も、大戰の終熄と共に直轉下落するだらうと思ひきや、もう講和開始の今日、物價は依然として高い、實に高過ぎるほど高い。けれども物價は遂に下落すること無く、或は此まゝで推移するかも知れない。と、斯う考へると、國民生活が一段進んだとも云へる。其の代り一般國民は日々の生活上於以上の奮闘を重ね苦痛を嘗めざるを得ない。

そこで我々は何よりも先づ一家の生活を安固ならしめる爲に一定の家産を作る必要を痛切に感ずる。私は家産五萬圓主張者の一人であるが、この莫大な金は一朝一夕に得られるものではない。隨つて先づ千圓貯金の勵行を奬め、次第に一萬圓、五萬圓とその額を大にして行くことを望む者である。說く所、家事經濟、消費經濟、金錢活用法等の數項に涉つてゐるが、細心よく之が實行と運用とに注意せば必ず一廉の財産家になれると思ふ。

既に一定の家産を作りて其の生活を安固にすれば如何に物價が高くならう

とも、決して不安の念を抱く必要がなし、子々孫々をして各々その本分を盡くさしむるに足る。是をまた國家の立場から見れば、家産の裕な健實な家庭の殖えることは國運の發展上大いに慶賀すべきことであると考へる。些か所思を舒べて序とする。

著者識

定收入者の金錢活用 千圓以上溜めるまで

目次

第一　金を溜めよ……一
第二　金は上手に使へ……九
第三　金の活用法……二一
第四　貧に處する道……三七
第五　分度論の應用……五一
(一)　身分相應……五一
(二)　面白い分度の立て方……五四

(三)實生活に應用した分度……五八
(四)豫算の立て方……六三
(五)千圓溜めるまでの年數……七〇
第六　上手な暮し方……七七
第七　定收入以外の收入を得る方法……一〇一
第八　金の溜め方……一一一
(一)貯金と投資……一一一
(二)必ず溜まる貯金の方法……一一八
(三)引出す貯金と引出さぬ貯金……一三一
(四)複利の計算……一三六
第一表　元金一に對する元利合計を求むる複利表……一四一

(五)第二表　毎始期に一づつ貯へたる元利合計を求むる貯金表……一四四
永世据置貯金……一五四
第九　安全簡易一萬圓溜めるまで……一五九
第十　世渡りの道……一六五
(一)子供を多く持ちて始めて人生が解る……一六五
(二)貧は福の神……一六七
(三)澤庵和尚の明言……一七二
(四)學びて富み富みて學べ……一七四
(五)辻待車夫の炯眼警語……一七六
(六)伊達政宗の遺訓……一八四
(七)千圓貯金せんとする我が家の家計……一八五

第十一　金利の話……一九五
(一)日歩年利換算表……一九六
(二)年利日歩換算表……二〇一
第十二　利子早見表……二〇五
(一)年一割二分の利息……二〇五
(二)年一割五分の利息……二〇七
(三)年二割の利息……二〇九
第十三　家産五萬圓蓄積法……二一三
(一)日掛五萬圓貯金表……二一四
(二)年掛五萬圓貯金表……二一五

目次（終）

定収入者の金錢活用

千圓以上溜めるまで

松浦松次郎著

第一　金は溜めよ

少しでも金に窮したことのある人は必ず金の有りがたさを痛切に感じて居るに違ひない。が、人はとかく貧乏すると、金が何だといふ氣になつたり、人生の目的は金以外にあるものだと高言したがるものだ。併し此の世から金(通貨)といふものが撤廢されぬ限りは其の多少に依つて貧富の懸隔を生じ、富める者は常に安らかに幸に而か

第一　金は溜めよ

も樂しく暮し、貧しき者はいつも生活上の不安を脱することが出來ないといふことになる。

男一匹、自分の口を糊することの出來ない筈は勿論ないが、有れば有るに任せて散財して遠きを慮らず、年老いて後悔んだッてもはや追付くものではない。若い時の血氣に走つて、遠き將來の準備をしないやうな者は必ず人生の悲劇を演出するに相違ない。

金ゆゑに悲劇を演ずる人は幾らあるか知れない。新聞の三面記事を見ても知られるが、金の無いために子供の教育も出來ず、妻子も養へず、甚だしきは自分一人さへも食へずにうろ〳〵して居る者が天下算なしであると思ふ。孟子は「恒産なき者は恒心なし。」と言つて、人間面をぶらさげて人間らしい心を有つて世に立たうとならば、先

づ恒産卽ち一定の財産を作れと戒めたが、人間の生活に最も必要なものは自立獨行の精神と、獨立自營の出來るだけの財産である。一人身にせよ、妻子眷族があるにせよ、他人の厄介にならずに活計を立てゝ行くだけの財産がなくては迚ても面白く樂しく而も強く此の世を渡ることが出來ない。面白くないと、其の裏面に必ず煩悶が起り、煩悶は悲觀を生み易く、悲觀は人を弱者の地位に立たしめる。そして俺は此の世の落伍者だなどいふ弱者感が高まつて來ると、困つたことには遂に死を考へるやうになり易い。金が何だと喞いてゐた者が其の金に窮して天壽を縮めてしまふに至つては實に沙汰の限りである。併しこゝが所謂金の世の中の半面であるまいか。近年の話であるが、某地に相當の財産家があつた。其の男は金の有るに任せて少しも將來の事などを考へず、毎日遊び暮して居たが、其の爲に父祖傳來の田畑も家屋敷も人手に渡してし

第一　金は溜めよ

まつて、其の日暮しの貧乏世帯の身となつた。然るに考を立て直して身代を盛返すだけの意氣込みはなし、たゞ成行きに任せて居たものだから一年の暮には僅か二十錢の小金にも困り果てるやうになり、思案投首しても今はもう何とも仕方がないので、

『私は今、二十錢の金で生命を失し申候、後にて人々これを聞き候はゞ、定めて二十錢ばかりなら俺が呉れても遣るべきに、憐な事をしたものだと云ふ方も有之候はん。併し死なぬ中はなか〳〵呉れて下さる方も、貸して下さる方も無之候。』

との書置を殘し、自ら松の木にぶら下つてブランコ往生してしまつたといふ事である。一寸聞くこと如何にも馬鹿らしい話であるが、よく考へて見ると、實に有り難い活教訓である。此の男こそは眞に金の大切な事、金は是非とも貯蓄せねばならぬ事を教へて呉れたものと云はねばならぬ。

金を溜めるには斯くの如くせよ

先づ千圓溜めよ

金は溜めよ、出來るだけ多く溜めよ。併し金は天から降るものでもなければ、地から湧くものでもない。隨つて金を溜めるには先づよく眞面目に働き、そして一方ではよく儉約して身分以下の暮しを立てる。斯くて勤勞と節儉とに依つて得た金の支出を成るべく少くし、其の餘分を必ず貯へて行く。それが最も安全な金の溜め方であり、又最も平凡な普通な遣口である。こんな平凡な方法で金が溜るだらうかと疑ふ人もあるか知れないが、平凡は眞理であり、而かも其の平凡な遣方の中にもいろ〳〵な手段がある。既にどうして支出を少くするか、收入を多くするかといふことが大きな問題ではないか。

平凡な道を歩け、そして多きを望まずして先づ千圓だけ溜めよ。此の二言を貯金の標語として平素勤儉力行したならば將來は必ず福壽圓滿の長者となつて此の世を愉快

に安樂に暮すことが出來、國家のためにも亦應分の奉公が出來ようと思ふ。

貯金卽ち金を貯へることのみ知つて、それを活用し利殖する法を知らぬのは甚だ迂愚な話である。が、昔の格言は不幸にして溜めさせることにのみ專一であつて、溜めたものを活用し利殖する方法を敎へてゐない。例へば

稼ぐに追付く貧乏なし。

塵も積れば山となる。

千里の道も一歩より始まる。

大海も一滴の水より成る。

の如きは何れも其の好例である。尤もこれ皆寔に貯金上の好敎訓であるが、溜めた金――先づ少くとも一千圓だけ――を如何に活用し增殖して更に巨富を致すべきか、更

此の金言を味へ

に此の點にも着眼してほしい。千圓ばかりの端金を溜めて、いはゆる小成に安んじてはならぬ。

要するに金は現世に必要なるものであると考へて、先づ千圓だけは傍目もふらずにせつせと貯へよ。貯へたなら如何に活用して更に利殖するかといふ問題であるが、その貯金、利殖に最も大切なことは其の人の生活に對する決心と覺悟である。卽ち

苦あれば必ず樂あり、樂あれば必ず苦あり。先づ苦しみて然る後に樂しむを賢者とし、先づ樂しみて然る後に苦しむを愚人とす。永遠の幸福を望む者は一時の勞苦を忍ぶべし。老後の安樂を願ふ者は若年の辛苦を厭ふべからず。小壯有爲の間を徒らに遊び暮さば、老いて後悔ゆとも甲斐なかるべし。

だけの決心と覺悟さへあれば、日常生活上に一段の細心と一層の努力が加つて來る。

第一　金は溜めよ

隨つて心の底から金の必要を感じて溜めようといふ氣も起るから、千圓や、一萬圓位の金を溜めることはさほど苦心を要さないのみならず、寧ろ大なる愉快を伴なふものである。

一休和尚の歌

第二　金は上手に使へ

金が敵の世の中とはよくいふことである。けれども、今日は自ら耕して食ひ、自ら働いて着る時代では無く、すでに〳〵百般の事物が悉く分業によつて行はれてゐるのだから、金無しにはたゞの一日も滿足に生活することが出來ないと言つていゝ。一休和尚の歌に

世の中はこゝろ矢橋とはやれども
　ぜゝが無くては渡られもせず

とあるが、全くその通りである。即ち金は敵ではなくて、寧ろ命の親ほど有難いものである。毎日身分想應な暮しを立てゝ行つて、其の上自分の老後の事や、子女の教育

第二　金は上手に使へ

第二　金は上手に使へ

將來の事までもいろ〳〵と計畫するなど、それ〴〵樂しく安心して世渡りの出來るのは何と言つても金が有るからであり、金の力である。然るに金が無いと其の日〳〵の活計も世間並に立てられず、毎日食ふことや着ることの爲にのみ心配し困難して居なければならぬから、幾ら精出して働いても容易に一家の基礎を確立して磐石の安きに置くことが出來ない。古語に「衣食足つて禮節を知る。」とあるが、苟くも人にして禮節を辨へぬやうな者は人間の屑であつて、眞人間ではない。衣食が足るも足らぬも全く金次第の世の中に生活して居りながら少しも金の必要を感じない人があるならば、それは全く金に不自由の無い人か、猫に小判の樣な子供か、金の何たるかを辨へぬ馬鹿か、世間離れした仙人じみた人かであらう。眞人間として世に立つて、苟くも自分の體面を保ち一家眷族の繁榮を希ふ者ならば必ず痛切に金の必要を感じなければならぬ筈である。

また世には同じ人間でありながら或は王侯貴族の如き豪奢な生活をしてゐる者もあれば或は犬猫にも劣るやうな無慘な暮しを立てゝゐる者もある。が、かういふ甚だしい懸隔を見るのは、他にいろいろな原因があるにもせよ、其の第一原因は金の有無に過ぎないのである。金の有無多少は國家も、亦個人や家庭と同じやうな結果を見るものである。

凡そ人として富貴を希はぬ者はなく、貧賤を厭はない者もあるまい。併し貧富はも宿命であり運命であるから、今日如何に富み榮えてゐても、若し惡運がつゞき不幸が重なれば忽ち零落して裸一貫の哀な身の上となつてしまふ。殊に贅澤などして居ては驕る平家の久しかるべき筈がない。又たとひ昨今どんなに貧乏して居つても、其の

第二　金は上手に使へ

世に云ふ好運と惡運

第二　金は上手に使へ

人の心掛と努力の如何によつてはめき〳〵と身代を造り上げて將來金の山を積まぬものとも言はれない。有福になるのも、貧乏になるのも多くは其の人の心掛がよいか惡いか、眞面目に働くか怠惰けるかに依つて決定るものである。卽ち世にいふ好運、惡運は大抵自ら求め造るものであるとも言つても差支がない。併しどんなに働いても、多くの金を取ても之を何の考もなく、又働けば幾らも取れる、儲けられるなどゝいふ暢氣な考で片端から湯や水を使ふやうにざぶごぶと使ひ果しては恐らく何年經つても決して金が溜らず、隨つて餘裕ある生活も出來るものではない。又常に一攫千金の夢にあこがれて、どうしたら儲からう、かうもしたら金が溜らうなどゝ、四六時中たゞもう金の事にばかりあくせくして居つても、さう容易に儲かるものでもなく、溜

儲けるよりも使はぬ算段をせよ

金の無駄使ひの實例

るものでもない。

もと〳〵金は容易に得難いものであるが、また極めて散じ易いものであるから、昔から、之を足の早きにたとへて「お足」といひ、又「儲ける算段よりは使はぬ分別。」をせよと誡めてある。金は使へば幾らでも使へるけれども、眞に金の價値と尊さを認めても、はやこれ以上はどう考へても最も有効に使ふことが出來ず、其の使ひ途を公衆の前に發表しても少しも疚しからず恥しくないやうな使ひ方をするのは實に困難なことであると思ふ。かう考へると金の有る人は有るのに困つて無意味に消費し、無い人は無いのに困りながら矢張り無駄な使ひ方をして居ることが隨分多いではあるまいかと思ふ。例へば金時計をぶら下げ、金緣眼鏡を掛け、縮緬の兒兵帶をゞめ、表附の桐下駄を穿き、諸肌拔いでも汗の出るやうな夏の日盛りにインバネスなど着て歩く人たちや、花よ酒よ女よ芝居よと遊惰に身を持崩して累を子孫に及ぼし世を害して

第二　金は上手に使へ

第二　金は上手に　へ

金は正當に有効に使へ

ゐる人たちは卽ち金が有る爲に無意味に散財して居るものであり、また身分不相應な洋服を着け、高價な帽子を冠つて洋杖片手に得意がつてゐる腰辨や、ときゞ質屋通ひをしながら高等官の奥さんらしい身形をして居る安月給取りの妻女や、借宅住ひの貧乏世帶でありながら仕出の西洋料理や鯛の刺身に舌打ちして居るやうな人たちは卽ち金が無くて困りながら無駄使ひをして居るものであるまいか。かく貧乏の原因は全く浪費・濫費にあるともいへるのであるから、金は最も正當に最も有効に活して使はなければならぬ。宵越の金は持たないなどゝ言つて、一圓取れば其の一圓をすつかり使つてしまふといふことは惡い習慣である。金は少し溜つて來れば興味が起つて、自然と溜める心も出るものであるが、何の考もなしに無闇に使ふ癖に、どうせ溜らぬものだからけち〳〵するのは馬鹿々々しい、十錢や二十錢溜めたつて何にもならぬ。そ

虛榮心と慾望

れよりはきれいさつぱりと使つてしまへなどゝ言つて取つた金を皆使ふが如き事は絶對に禁じなければならぬ。とにかく有るに任せて使へばいつかはつんつるてんの貧しい境遇に陷り、又無くて苦しい困ると言ひながら無駄使ひをするやうでは幾ら心配しても藻掻いても迚ても有福になれず、ます〳〵貧乏するばかり。

浪費や無駄使ひは多く虛榮心と慾望に基づく惡德である。自分を正味よりも偉く立派に見せようといふ虛榮心をしつかりと押へ付け、又つまらぬ慾望を起させる酒蟲・煙草蟲・菓子蟲・蕎麥蟲・牛肉蟲・着物蟲・化粧蟲などいふいろ〳〵な害蟲をば克己の力で殺してしまはなければ、どうしても一家の暮しが立たぬ。少しく冷靜に考へて見たならば何處の家庭でも男でも女でも其の生活上日々どんなにつまらぬ無駄使ひをして虛榮心を喜ばせ慾望を滿たして居るかといふことに氣が付くであらう。單に食物・

第二　金は上手に使へ

金の使ひ方は卽ち金の溜め方である

着物・住宅等に限らず生活上すべての方面の事を仔細に調べて見たならば、あれも無駄、これも贅澤と、幾らも〳〵冗費の使ひ途が明かになつて來るであらうと思はれる。

凡そ一家の暮し向をして健實ならしめ、且餘裕あらしめるには先づ何よりも浪費を愼しんで無駄な物事に金を出さないことである。卽ち生活費を切詰められるだけ切詰めて、從來よりも遙かに少い金で健康を保ち體面を保つて行くことが大切である。「生活費は要るだけはどうしても要る。」などゝ大びら切つた大樣なことを言はずに節約し得るだけ節約するつもりで、何事にももつと細心な注意を拂つて金の使ひ方を正當有効ならしめたならば必ず餘分が生じていやでもおうでもひとりでに金が溜る。卽ち金の使ひ方は之を縱に見れば金の溜め方となるのであるから、經濟的に最も有効に最も正當に消費する方法はやがて最も巧に貯金する方法であると言つていゝ。然るに金の

金の使ひ方の祕訣

使ひ方に注意せず、たゞ金の溜め方にのみ腐心して溜らぬ溜らぬといふのは、底の無い財袋に金を入れる樣なものであつて何時まで經つても決して餘財が生じない。金の有る人が奢侈に流れるのも、無い人がだん〳〵貧乏をして行くのも皆これ金の使ひ方が亂暴で有効でないからである。金の得難いこと、貴いことを考へて大いに之を愛し惜しんで正當有効に使ふならば、貧者は次第々々に有福になり、富者は富むに隨つて一家一門の繁榮幸福を期すべく、進んでは大いに國家の爲に盡すことも出來よう。

そこで金の使ひ方の祕訣ともいふべき極めて大切なことを一纏めにして述べると、すべて

一、大損を未然に防げ。

二、家賃の安い家に住め。

第二　金は上手に使へ

三、爲にならぬ物、保ちの惡い物を買ふな。
四、差當り必要のない物を買ふな。
五、身の廻りの物は何でも質素なれ。
六、坐して買物をするな。
七、大買ひしてよいものと、小買ひしてよいものと區別して買へ。
八、安物と初物を買ふな。
九、言直通りに物を買ふな。
十、流行最中には物を買ふな。
十一、金のかゝらぬ娯樂方法を考へよ。
十二、掛で卽ち帳面で物を買ふな。

金の使ひ方の上手下手

十三、借金してまで物を買ふな。
十四、和洋兼用の二重生活の贅費を省け。

といふことに歸着する。

要するに身の程を考へて一錢でも十錢でも有効確實に使用する覺悟が最も大切、更に一錢を五錢に活かし、十錢の金でも他人の使ひ方に較べると二十錢にも相當するやうにうまく上手に賢く消費する工夫を凝さなければならぬ。一錢を一錢に使ひ、十錢を十錢に費すのは當り前のことで、たとひ其の費し方が有効であつても活きた使ひ方ではないと思ふ。金の使ひ方の上手下手は實にこの一點にある。

貯金の標準

とにかく差當り千圓だけ溜めようといふ人は其の收入の多い少いに頓着せず、又如何に物價が高くならうとも、金の使ひ方にさへ氣を付ければ幾らも安價に生活するこ

第二　金は上手に使へ

とが出來るものだといふ自信を有つて、千圓溜めるまでは飽くまで勤儉努力しなければならぬ。どうせ溜めるなら標準を百圓に置くよりも、先づ千圓を標準にして奮闘するがいゝ。千圓よりは一萬圓を目標とするがいゝ。千兩箱一つ出來たらほゞ生活の基礎が確立したものと見てもよい位であるから、一萬圓溜めれば生活はもう安固であるから。

金は溜らないのではなくて溜めないのである

生活費の制限

第三　金の活用

二三人寄合うて話がたまゝ家政上のことに及ぶと異口同音に「どうも金が溜らない、金が殘らない。」と零す。一家の經濟に對して深甚な注意を拂はず、精細な調査を爲さずしてたゞ從來の仕來に任せて暮しを立てゝ居ながら金が溜らないといふのは、溜らないのではなくて溜めないのである。金が殘らないので無くて殘さないので、素より無理な言ひ草である。金は本當に心から溜める氣になつても人並勝れて身上の持ち方が上手で、而かも克己心と忍耐力が強くなければ溜るものではない。

身上の持ち方卽ち一家の經濟を上手に切廻すには是非とも金の活用といふことに十分心掛けなければならぬ。金を活用するには先づ自分の家庭の生活狀態を具に調査

して、無駄といふ無駄を悉く省いて極めて質素に暮す工夫を凝らす、と同時に一方に於ては一日の生活費にきちんと制限をつけてしまはなければならぬ、一日の生活費に制限をつけるには月收入を日割りにして見て、必ず其の日收入以内で毎日々々の暮しを立てるやうにすべきである。此の一事さへ確實に實行が出來れば自ら質素儉約になつて無駄が省け贅澤が出來ず、必ず豫想外に多額の金が早く溜るに極つてゐる。

生活費の切詰め方

例へばこゝに月收入三十圓で一家數人の口を糊してゐる家庭があるとすると、其の日收は平均一圓となり、今日までは一日平均一圓の金で自活の煙を立てゝ來たといふことになる。若し之を月三十圓の收入で暮しを立てゝゐるのだといふやうに常に月額の大きな收入を標準にして考へてゐると自ら心も亦大きくなつて、五錢十錢の小額の金が目につかなくなり、隨つて「五錢ばかりの小金が何だッ」といふ心を起して浪費する

る樣になる。此の習慣がつひに第二の天性となり、さては無駄使となり贅澤となるのである。然るに月收入三十圓を日割にして日收一圓の金で毎日暮しを立てゝゐるのだと常に小額の金を考へて居れば、たとひ一錢二錢の端金でも眞に必要ならざる限りは容易に使ふ心が起きまいと思ふ。一日一圓の收入から其の日の家賃・米代・味噌代・魚肉代等の食料・學費・雜費其の他の生活費を差引いたら餘す所は實に極めて零碎な金であらう。此の零碎な殘金は主として貯金に振向くべきものであるから、眞に金を溜める心ならば之を浪費する所か、進んでは必要な生活費をも切結められるだけ切詰める樣に心掛けて飽くまで金を活用するのが當然ではあるまいか。生活費の切詰め方は其の人の頭の働かせ樣でどうにもなる。

元來人は一戸を構へても構へなくても父母へ孝養を盡さねばならず、自身の行末、

生活の保障

弟妹・子女の將來を慮らねばならず、親戚・知人と交際せねばならず、それに何時どんな病氣・災難等の不幸に遭はぬとも限らぬものである。隨つて之に對して十分自ら相當の準備を整へ將來の保障をして置く必要があるから、どうしたならば之迄よりもつと日々の生活費を節約し得ようかといふことを我知らず考へるやうになる。前の例についていへば如何にせば日收一圓の生活費を切詰めてより多くの餘財を殘し得ようかと工夫するやうになり、生活費を切詰めるには金の活用が第一だと氣が付いて來る。

安價生活と簡易生活

金の活用に最も必用なことはどうすれば安價に暮せるか、どうすれば簡易に生活されるかといふ二つの問題を解決することである。毎日白米の飯を食うてゐるのは甚だ不經濟であり保健上にも宜しくないから、それよりはもつと安い麥飯を食べよう、玄

米飯を食べようとか。或は御飯に甘藷か馬鈴薯を糅にして食べようとかいふ經濟的な保健的な考が起らう。或はいつも敷島ばかり吸うて居るのは贅澤であるから朝日にしよう、朝日も無駄であるから今度はバットにしよう、あやめをはぎにしようとか、或は毎日電車で往復するのは不經濟であるから行きか歸りにだけ乘つて、節約した電車賃を溜めようとか、或は魚肉類は値段ばかり高くて其の割合に滋養分が少いから寧ろ安價にして營養になる豆類・蕷類・鹽魚類を食べようとか或は御用聞きに言付けて品物を帳面買ひするのは不經濟であるからすべて現金買ひにしようかと、其の他いろいろ經濟的な金の使ひ方が考へられるであらう。かくの如く最小の金で最大の効果を收めるやうに暮しを立て行くのが卽ち安價生活法である。又日に三度の御膳立を廢して飯臺を用ゐるとか、懷中時計・洋杖などの如き裝飾品の使用をやめて手輕に暮さうと

いふやうな考も起らう。或は無くて濟む手袋は買ふまい、襟巻も求めまいとか、或は鍋・釜・皿・鉢・茶碗のやうな食器は間に合ふ數さへあれば澤山だ。餘計な掛軸・置物・花瓶も買集める必要がないとか、一枚の網渡も使ふ度毎に綺麗に洗へば魚も燒けるし餅も燒けるといふやうに、一の道具が使ひ樣の如何によつて二通りにも三通りにも使ふことが出來る。かくの如く餘り必要ならざる物を買はず、一つの道具をいろ〳〵に役立てゝ成るべく簡單に手輕に暮さうといふのが簡易生活の精神である。安價に簡易に暮さうとするにはどうしても金を活用しなければならない。金を活用すれば從來一日一圓で暮してゐた家庭でも之を七八十錢に切詰めて行つて、日々二三十錢づゝの貯金が出來よう。切詰めた結果日に二十錢の餘財が生じれば月に六圓、年に七十二圓であるから、十年では元金だけでも七百二十圓の元金となり元利合計すでに千圓以上

生活費を切詰めよといふ眞義

となる。

一口に金を活用せよ、生活費を切りつめよとか言ふと直ぐ何も彼も儉約・節約と食ふ物も食はず、着る物も着ずにじみ〳〵と暮して行くやうな消極的な意味に聞えるけれども、さう聞くのは僻耳で、決してさうではない。例へば二三十錢位の鯛か鮪の切身を食べたからとて幾らも滋養にはならないけれども、此の金で大豆を買へば一升ほど得られる。同じ價格で買へる魚肉と一升の大豆とは其の滋養價に於てすでに比べものにもならぬ雲泥の差があり、且之を食ひ盡す人數に於て日數に於ても亦非常な差違があるではないか。卽ち大豆一升を煮豆にすれば三四人暮しの家庭なら少くとも四日位食べられようが、魚肉なら一食分にしか用ひられない。隨つて毎日一度づゝ魚肉を用ひるとすれば大豆一升食ひ盡す間に 25錢×(4−1)=75錢 の損になると見ていゝ。言ひ

食物に注意せよ

第三　金の活用

換ると魚肉の代りに一升の大豆を用ひると七十五錢の利益になる勘定である。元來食物には好き厭ひがあるから魚肉を食べずに豆類ばかり食へといふ樣に杓子定規なことをいふ譯には行かない。けれども、すべて飲食物は其の滋養分の多少と價格の高低に注意して成るべく安くて滋養分のあるものを用ひなければならぬ。生活費の大半は食料であるから、金を活用するには是非とも安價滋養食品の選擇といふことが緊切である。其の他着物・冠り物・穿物・携帶品などいろ〳〵の身廻りの道具を購ひ求めるにも矢張り常に金の活用といふことに重きを置いて、廉價にして丈夫な實用向のものを買ふがよい。身分外れの贅澤品や、一時限りの流行品などを買ふのは浪費の骨頂、決して金を活用する所以ではないから絶對に買うてはならぬ。たとひ世の中の人が我も我と奢侈に耽り華美を競ふとも、自分一人だけは千圓溜めるまではこの主義の下に堅く

カーネギー曰く

不用な道具を買ふのは金を寢せて置くのと同じことだ

質素な生活に甘んじて行くがいゝ。カーネギー曰く「多く不用品を貯へんよりは有用なる一品を求めよ」と斯言を味つて生活して行けば、溜めまいと思つても必ず金が溜まるに極つてゐる。

また臺所道具でも、食器でも、書齋の用具でも、裝飾品でも、簞笥でも柱時計でも、すべて一切の所帶道具は現在有り合せのもので間に合はせて、眞に必要を感じないならば決して買込まぬといふことも亦非常に大切である。少し餘裕が出て暮し向が樂になると、さまで必要の無い道具を買立てゝ、道具の多いのを自慢する人もあるが、無用の道具を買つて寢せて置くのは全く金を寢せて置くのと同じことで、世にこれほど不經濟な馬鹿なことがない。かういふ事は金の活用に疎い者のすることで、苟くも先づ千圓溜めようと發願した人の學ぶべきことではない。假りに木製の火鉢が一個があ

るのに、新に瀬戸火鉢を買入れたとすると、從來たゞ一つの火鉢で間に合せて來たものが、今度は有るに任せて我知らず二つとも使ふやうになるのが人情である。隨つて炭代がもとの倍掛るからそれだけ損になるのみか、新に購入した瀬戸火鉢の代金は之を使用する年數だけ其の働きを休止するから其の間の利息だけでも大した損である。例へば其の瀬戸火鉢を九十錢で買ひ、之を五年間使用した後、どうも恰好が氣に喰はぬといふので古道具屋へ十五錢で賣つたと假定し、此の金を年五分の利子で貯金したものと比較すれば 90錢×(1+0,05)⁵−15錢=998厘 の損失となり、若し五年間使用の後に破れでもして廢物になれば元金九十錢、利子二十四錢八厘合せて一圓十四錢八厘を損したことになる。こゝの道理をよく考へ、間に合ふだけは成るべく現在手にある道具で間に合せて簡易に暮すことも、亦金の活用上忘るべからざる事である。若し眞に

不自由を常と思へ

物卽ち金

必要なもの、眞に便利で欲しいものがあつても、それを買ふだけの餘裕の生じない中はどんな品物でも買うてはならぬ。無理をして買へば生活費に穴があく。家康の言の如く、不自由を常と思へば何事も不足なく暮しが立つていく。

安價に暮し簡易に暮すと同時に、苟くも買求めた物はどんなものでも決して捨てぬといふことも亦忘れてはならぬ。卽ち物を大切にすることが極めて大切なのである。凡そ世に一物として金を出さずに求め得るものは無いし、利用すればどんな物でもそれ相當の役に立つ。使ひ古したからとて捨て、破れかゝつたからとて棄て、屑物だからとて棄てゝ顧みないのは、五厘や一錢の金は目にも入らぬ端金だからとて捨てるのと同じであるまいか。金ならばたとひ一錢でも五厘でも大切にする癖に、物を惜しまず捨てるとは何たる矛盾であらう。物の活用を辨へぬにも程が

ある。物卽ち金ではないか。金で買つた物は其の新古・大小・輕重に拘らず必ず相當の用途があり價値があるものだから、之を巧に利用して出費を少くするか或は古道具屋なり屑屋に賣拂つて金にするがいゝ。例へば食品の如き何處の家庭でも粗末に爲易いもので、大根・人參・牛蒡の切端、肉の切端、殘飯などはとんと利用されて居ない。之は小さいことであるが一家の消費經濟上非常に重大なことである。昔は御飯を零して食べなかつたり、又は捨てたりすると罰が當つて盲目になるぞと言つて、其の子女に食物の大切なこと、粗末にすべからざることを敎へたものである。言葉は非敎育的であるけれども、其の精神は何人も學ばねばならぬ。又罐詰の空罐・麥酒瓶・正宗瓶・紙屑・古着・襤褸・木灰などは何處の家にも溜まるものであるが、之を捨てずに賣拂ふのも亦金の活用の一種であるまいか。月平均四錢の紙屑代は一寸考へると僅かものであるが、之を得難いもの貴いものとして賣拂ふ度毎に根氣よく十年も貯金したら年利四分五厘としても、4錢×12×12.841179＝41.838圓　卽ち四十一圓六十三錢八厘となるのである。隨つて其の物の本質が損傷むまで使ひ果した古物や屑物などを賣上げた臨時收入を悉く利用して貯金したら隨分多額にならう。金を活用する道はこんな處にも存して居ることに氣付かば千圓位溜めるのはさまで困難でないと思ふ。たゞ實行の如何にある。

積極的に貯金せよ

金の活用には此の如く二方面ある。卽ち單に支出する金を少くせよとの消極的な意味ばかりでなく、積極的には成るべく少額の金を使つて於多くの結果を收めること、零碎な金を積んで利殖することをも意味するのである。

とにかく金錢の活用に注意して、消極的に生活費を切詰めようとか、積極的に有効

時卽ち金たらしめよ

中井竹山曰く

第三　金の活用

に使はうとか、幾ら僅かでも利殖の道を講じようとかいふ確りした考を有つた人ならば又同樣に時間の活用にも留意するであらう。何となれば時は金だからである。例へば餘暇を利用して養鷄・養蠶の如き家庭副業を始めるとか、子女の教育、結婚の準備に果樹や桐・杉・落葉松などを栽植するとか、煙草の小賣や通信販賣を始めるとか、編物・刺繍・仕立物の賃仕事をして働くとかかとかく夫婦心を同じうし力を協せて一家の基礎を固めることに奮勵するであらう。うか〳〵と其の日を無爲に暮してゐるやうでは金を活用する心も起らず、揚句の果ては暮しに困り切つて借金の前に尊き頭を下げねばなるまい。

千圓溜めるまでは積極的に金を活かして有効に使へ。又幾ら僅かでも貯金して金の効用を發揮させよ。千圓溜めるまでは消極的に生活費を切詰めて無駄のない生活を營

んで餘裕を作れ。中井竹山も、「無用の物は僅かの物にても調ふべからず候。入用の物は僅かにても無用の事に費すまじく候。」と其の子孫に遺訓してあるではないか。

尙そればかりで無く、物卽ち金、時卽ち金と思つて、どんな物でも大切にし、わづかの時間でも利用して、毎日定收入以外に金を取る工夫せよ。定收入で暮しを立てゝ其の殘金を活用すると共に、進んで幾らなり金を取ればそれだけ早く千圓になるではないか。

貧乏世帶の辛さ

第四　貧に處する道

世の中で何が辛い苦しいと言つても貧乏世帶ほど辛いものは又とあるまい。系累のない一人身ならば清貧にも赤貧にも甘んじ安んじて、操守する所を屈げず、獨り超然と生活して行くことも出來ようが、妻を持ち子を有ち、それに親・兄弟まであつて見ればなか〳〵さうは行かない。苦しいながらも世間並に暮しを立てゝ行かなければならぬから、其の貧苦が日に增し月に募ることであらう。貧乏な家に生れた者、若しくは事業の失敗、何等かの不幸の爲に貧乏してゐる者は緊褌一番大なる勇氣を振起して奮鬪すれば着々頽勢を挽回することが出來よう。しかし遊惰・奢侈・贅澤・濫費などすべて自分の不心得の爲に貧乏してゐる者は腐つた心を入換へて眞面目になり、そして

何の爲にかう貧乏になつたのかと自ら其の原因を尋ねて之に對する善後策を講じなければとても〳〵衰運回復の見込が立つまい。又どんな原因で貧乏してゐようとも、決して貧乏を苦にしてがつかりしたり、行先を悲觀したり、幾ら働いても駄目だなどと思つたり自暴自棄したりせず、かうして眞面目に働いて居れば天は自ら助くる者を助けてくれるに相違ないと堅く信じ、又必ず家運を盛り返して見せるぞと深く心に決する所が無ければならぬ。貧苦を擊退すると否とは實に其の人の氣力・決心・信念の强弱にあることを忘れてはならぬ。殊にこれから千圓溜めようといふ貧乏者は如何に貧乏だからとて決して失望したり落膽したり煩悶したりせず、一夫婦氣心を揃へ歩調を揃へてよく働くと共に又よく分を守り胸中に小天地を作つて常に樂しく暮し、そして時機の到來するのを氣長に待つことが何よりも得策であり大切である。

逆境は人を作り金を作らしめる

貧富の差別と貧に打勝つ法

世には貧乏のどん底に陷つてしまふと氣を腐らして及ばぬ事をくよ〳〵と心配したり、意氣銷沈して再び立てなくなつたり、人を恨み世を憎んだり、甚だしきは前途を悲觀して自殺したりする人もあるが、之等はあまりに小膽極まる話で與に談ずるに足らぬ。死ぬ氣で働いたらどんな事でも出來るではないか。況して貧乏の神と戰つて之に打勝つ位のことは何でもあるまい。逆境は人を作り金を作るものであることをくれ〴〵も忘れてはならぬ。

貧乏に打勝つには先づ貧富の差別を明かにし、貧に處する方法を講じなければならぬ。二宮尊德翁の遺訓に、

「富と貧とはもと遠く隔つものにあらず、たゞ一つの心得にあり。貧者は昨日のために今日勤め、昨年のために今年勤む。故に終身苦しんで其の效なし。富者は明日の

ために今日勤め來年のために今年勤む。故に安樂自在にして事成就せずといふことなし。

然るに世の人、今日飲む酒無き時は借りて飲み、今日食ふ米無きときは又借りて食ふ。是貧すべき原因なり。今日薪を取つて明朝飯を炊き、今夜縄を索うて明日籬を結はゞ安心にして差支なし。然るを貧者の仕方は明日取る薪にて今夕の飯を炊かんとし、明夜索ふ縄を以て今日籬を結ばんとするが如し。故に苦しんで效成らず。」とあるが、貧者富者の區別は實に僅々此の數十言の中に盡されてゐるではないか。卽ち貧乏者は昨日のために今日働き、今日のために明日稼ぎ、或は今日の爲に今日働くのであるから、幾ら働いても後から後から生活難に追付かれて、年が年中苦しまねばならぬことになる。かくては「稼ぐに追付く貧乏なし」といふ金言も空言に聞え仇言

金持になる平凡道德

暮向きの程度を一段引下げよ

に響くであらう。

それならどうすれば貧乏人は富者の如く昨日のために一昨日勤め、明日のために今日働くやうに生活上に餘裕あらしめ得るかといふ問題が起る。これさへ滿足に解決が出來、實行が出來れば貧者も一變して富者となること必定である。それには修身齊家の道として何人も知つてゐる通り、「勤勉なれ。」、「忍耐なれ」、「持久心强かれ。」「分に安んぜよ。」、「僥倖を恃む勿れ。」などといふ平凡道德も無論必要で、是非とも之を遵奉し實行すべきは素よりである。併し最も緊切な貧乏切拔け策は他にあるのだ。曰く「生活の程度をもう一段引下げよ」、曰く「轉職する勿れ。」といふ二つがそれである。

たゞさへ貧乏してゐるのに尙生活の程度をもう一段引上げよとは少し無理のやうであるが、救貧の祕訣、家計整理の奥儀は此の一事を措いて他に求めることが出來ぬ。

生活費はどうにもなるものである。見給へ。世の中には月收一萬圓以上の人もあれば、五千圓の人もあれば、千圓・五百圓・三百圓・百圓の人もあり、七六十圓の人もあり、四十圓・三十圓・二十圓・十五圓の人もあり、もつと少いのは月收十圓内外の人もあつて、家々の月收入は千差萬樣　悉く違ふ。けれども萬戸皆相當に暮しを立てゝ行く處を見ると、生活費はどうにも伸縮の出來ることが明かである。然り生活費の伸縮自在なことは理窟ではなくて動かすとの出來ない事實であるから、若し收入が不足で遣切れぬならもつと生活程度を引下げて暮すがいゝ。從來月々五十圓で暮しを立てゝ來たからとて、いつも五十圓無ければ生活が出來ぬといふものではない。少し家事に注意して無駄を省けば三十圓にも減じられる、二十五圓にも切詰められると思ふ。それを生活費に月額三十圓掛るものときめてしまつて、其の伸縮が自由自在なる道理を曉らず、

生活の爲に借金するな

月末になつて收入が三十圓に充たなかつたり、又生活費が三十圓以上掛かつたりすると、其の不足を補ふために質屋へ行く、借金する。受戻す見込のない質草、返す當てのない借金をしてどうして受戻し、どうして返濟するつもりか。それではだん〳〵いよ〳〵貧乏するばかりではないか。又質を置きたくとも質草が無くなり、金を借りたくとも貸し手が無くなつたらどうする。貧乏人・安月給取りはこの點に注意して從來月三十圓で生活してゐたならば今月から二十五圓で暮せ。二十五圓で暮して居たら二十圓位で暮せ。二十圓で衣食してゐたら其の生活程度を十六七圓に引下げ生活費の不足を補ふ爲には斷じて借金せぬといふ主義で此の世を渡れ。セークスピーヤはこんなことを言つてゐる。「金を友人に貸すは金と友人とを併せて失ふものなり。」と。

金が敵の世の中、金を貸して其の金と友人を失ふ場合が多いやうに、其の反對に金

を借りて返濟出來ぬ辛さに恩を仇で返す場合も亦多い。借りる時の佛顔を返す時に閻魔顔に變へるよりは借金せぬ方がいゝ。若い時は辛勞は請うてもせよといふ。出來るたけ辛抱して行けば必ず貧苦に打勝つことが出來よう。何を苦んで雨の漏り易い木蔭を頼む必要がある。例へばこれまで三十圓の月收でどうやらかうやらやつと暮して來たなら、此の貧乏所帶に處するため思切つて生活程度を二十七圓に引下げて十五年間を暮して見よ。そして毎月切詰めた餘分を年利四分五厘で必ず預金したならば、(30圓−27圓)×12×12.841179=462.282圓　卽ち四百六十二圓二十八錢二厘といふ大金が溜まるではないか。以下年利を明記せぬ場合はすべて年利四分五厘年一回利子を元金に加へるものと見て計算する。銀行の利子は四分五厘より高いし、又元加利子の計算は年二回であるから實際の貯金高は本書の計算よりも遙かに多くなる。

又十五年もかうして辛抱してゐる中には月收入が三十五圓に增し四十圓に殖えもしよう。收入が殖えて來ると、月二十五圓時代、三十圓時代にあくせく暮してゐた苦しみを忘れて、そろ〳〵刺身蟲・酒蟲・着物蟲・芝居蟲・色蟲などが頭を擡げて來て、奢侈・贅澤・遊惰を始め、五圓なり十圓なりの餘分の收入は何處へどうと譯もなく無意味に濫費してしまひ易いものである。一體人が貧乏するのは虛榮心に驅られ贅澤に流れ侈奢・遊惰に傾くからである。隨つて何事も質素儉約勤勉を旨とし生活を安價にし簡易にして餘分の收入をそつくりそのまゝ貯金するか、或は其の幾部分を翌月の生活費に廻さねばいつまでも貧乏を切拔けられない。かく健實に暮して行けば昨日の爲に今日働き、今日の爲に明日勤めるといふ貧乏世帶の苦しみから脫れることが出來るのみか、千圓位は直ぐ溜まる。例へば今月收二十圓の安月給取が六年目に月々二十五圓の收入を得

ることになつたとしても、其の生活費を矢張り十七圓として殘りの三圓を必ず貯へ、尙殘りの五圓を五ヶ月だけ手元に殘して置くと一ヶ月分の收入がいつも手元にあることになるから、もう何の心配もなく愉快に暮しが立つ。かくて月給取りなら增俸の六ヶ月目から 25圓－17圓＝8圓　づゝ貯金して行くがいゝ、尤も節約に節約しての每月豫算の中から僅かづゝ殘して長い年月の間に一ヶ月分の收入を浮かすのが最も上手な遣り方である。手元に置くべき一ヶ月分をどうして浮かすかは專ら主婦の考慮すべき問題である。それは兎に角として此の人の貯金は十五年後に

(20圓－17圓)×12×21.719337＝781.896圓

(25圓－20圓)×12×12.841179＝770.470圓

781.896圓＋677.293圓＝1552.366圓

となる。卽ち千五百五十二圓三十六錢六厘の貯金高で、既に溜めやうと思つた千兩箱がもう出來たのであるになる。但し十五年間を從來の通り月三圓づゝの貯金と見て、十年間だけ五圓づゝ餘計に貯金したものと計算し、そして兩方の貯金高を合算したのである。しかし十五年間の中には子供も大きくなり交際も廣くなり、自然と諸掛りも增さうから此の中から其の方へ三百圓だけ差引いても優に千二百圓は溜まり、而かも手元にはいつも二十五圓の現金があるといふ次第。何と心强いではないか。暮し向が思ふやうに行かぬなら、大いに儉約せよ、生活費を切詰めよ。そして悲觀せずにうんと働くに限る。

人は貪乏すると誰でも他人の境遇を羨み易いもので、あの商賣が儲かる、あの職務が月給が高く昇給も早いなどゝ直ぐ心が動す。そして長い年月の間手慣れた商賣や職

務を惜し氣も無く抛つて轉職卽ち商賣替へをする人がある。これは思はざるの甚だしいもの、大きな間違と言はねばならぬ。元來月々一定の收入が無ければ一家は成立つて行かないものであるから、收入を得るために一旦職業に有付いたならその職業の何たるを問はず終生之を忠實に守つて行くと云ふ確固たる考が無ければならぬ。苦しまぎれに慾心を起したり、目前の利に迷ふたりして濫りに轉職すると却つて貧苦のどん底に沈んで轍にあぎとふ鮒の如き悲慘な目にあふであらう。此の一事は專門の知識技能の無い安月給取り、商人・職人たちの大いに注意すべきことで、若し漫然あの仕事がいゝさうだなどと深くその仕事を研究せず、自分の學識・力量・境遇をも考へず、濫りに商賣替へすれば哀れ食ひはぐれをせぬとも限られぬ。殊に人多くして仕事少き今日、貧乏のあまり轉職策を講じて自ら死地に陷るやうな馬鹿なことをせず、幾ら收

無闇に收入や報酬の多きことを望むな

石の上にも三年

入が少くても必ずそれに甘んじて、其の代り生活を安價にし簡易にするがいゝ。收入は必ずしも多きを望まずとも幾らも暮していける。收入の多きを望むと却へつて他人の商賣が羨しくなり、つい轉職を思ひ立ち易い。人は人、我は我と自分の本分を守つて行くのが貧に處する道の一つである。人の境遇はさま〴〵で、月に一千圓取つてゐる人もあり、十圓・十五圓・二十圓位の人もある。收入が少いなら大いに奮勵し勉强して働けばよいのに、たゞ徒らに身分の上の者を羨み妬み、「あゝ詰らない、甲は二百圓乙は百圓取つてゐるのに、自分は十八圓だ、彼も人、我も人だのに。あゝつまらない。」と言つて愚痴をこぼすやうになると、仕事が厭になる、懶ける。そこでいよ〳〵貧乏になる。自分の商賣・職務をつまらないものと思はず、過分の慾を起さず、せつせと眞面目に働け。働けば必ず運が向いて來て金が溜るものである。石の上にも三年と

いふではないか。金を溜めるには辛抱が第一である。都々逸に曰く

福は來る〳〵車のやうに辛抱する身にめぐり來る

と謠へるのは眞理である。

分度とは何ぞや

第五　分度論の應用

(一)　身分相應

分相應に風が吹くといふ諺は、一家の暮し、支出は其の收入・身分に應ずべきものとの意である。かく身分に應じて生活の程度を定めて行くことを分度といひ、分度論を唱へたのは報德教祖二宮尊德が始めである。尊德其の創始する分度を論じて

「百圓の身代の者百圓にて暮すときは富の來ることなく、貧の來ることなし。百圓の身代を八十圓又は七十圓にて暮す時は富是に歸し財是に集る。百圓の身代を百二十圓又は百三十圓にて暮すときは貧是に來り財是に去る。たゞ分外に進むと分内に

退くとの違ひのみ。」

と述べて居る。此の言誠に平々凡々たるもので、これ位のことは何人にも解り切つたことである。併し眞理は平凡なところに含まれて居り、平凡な事柄が却つて實行されぬものである。百圓の身代でありながら百二十圓、百三十圓の暮しをするのは身分不相應であることは分り切つてるが、それなら百圓の身代の者が百圓の暮しをするのは果して身分相應であらうか。尊德は之を評して、「富の來るなく貧の來ることなし。」と言うてゐる。しかし斯くの如く收入から生活費を差引いて後に鐚一文も殘らぬやうな、一ぱい一ぱいの生活は素よりその評言の如く富の來るべき筈はないが、動もすると寧ろ貧が來るのである。卽ち少し油斷すると必ず不足を告げねばならず、又病氣・災厄等不慮の場合の出費は如何とも爲し難いので他から借金するか質屋へ驅付けるか

益軒の家道訓に曰く

二つに一の擧に出でなければなるまい。乃ち收支漸く相償ふが如き一ぱい一ぱいの生活、萬一の場合に自ら處することの出來ぬやうな暮し方は決して身分相應といふことが出來ない。身分よりも一段質素な程度の暮し方こそ身分相應といふべきもので、例へば「百圓の身代を八十圓又は七十圓にて暮す時は富是に歸し財是に集る」といふやうな遺り口の如きは卽ち此の適例である、貝原益軒が其の著家道訓に

「飲食・衣服・家居・器物など我が身の分より輕んずるがよき程なるべし。身上に相かなへりと思ふは分に過ぎたるなるべし。」

と論じてあるのは流石に名言である。身分相應と思ふのはすでに身分を越してゐるのだ、贅澤に手をかけて居るのだと自ら反省して、質素につゝましやかに暮しを立てゝ行け。是實に分度の本領だからである。

（二）面白い分度の立て方

分度論の大要

さて二宮尊徳の分度論の大要を紹介すると、既往十ヶ年の盛衰增減によつて未來十ヶ年の軌範を定めて折半し、其の半分を分内として暮し内一切の費用に充て、殘りの半分を分外として自讓・他讓の資に貯蓄するといふのである。既ち之を要約すれば

天分―分度
- 分内（既往十ヶ年の實收入年平均額の半額）
  - 經常
    - 今日のため
    - 今月のため
    - 今年のため
    - 分内の七分を充つ
  - 臨時
    - 吉凶のため
    - 不時のため
    - 補充のため
    - 分内の三分を充つ
- 分外（同）
  - 自讓
    - 來年のため
    - 吾身のため
    - 子孫のため
    - 分外の八分を充つ
  - 他讓
    - 人のため
    - 村のため
    - 國のため
    - 分外の二分を充つ

となる。實に引締つた、誠にぎり〳〵した暮し方であつて、家政の紊亂した富豪の家運挽回策などには實に最も適したものである。尊徳翁が野州櫻町字治家を始め疲憊した諸大名の家政を整へたのは總べて此の分度によるのである。しかし此の方法は一般家庭殊にこれから禪を〆めて僅々千圓の小金を溜めようといふ貧乏人には少し無理な遣り方である。尤も田舍住ひの夫婦暮しか、都會生活でも一人身ならば强ち實行の

出來ぬことでもないと思ふ。卽ち三十圓取りの夫婦者が辛抱して此の方法を六年間實行すれば（30圓－15圓）×12 ×7.019152＝1263.447圓　卽ち千二百六十三圓四十四錢七厘溜る。月二十圓取りの獨身者が妻を迎へるまで六年間此の分度に從つて暮せば（20圓－10圓）×12×7.019152＝84.308圓　卽ち八百四十二圓三十錢八厘の金が溜るから妻帶後あくせくせずに暮せる。

元來分度を立てるには其の家庭の境遇・收入・人數及び土地の狀況を參酌しなければ實際の役に立つものでない。けれども、一々其の家庭の事情や土地の狀況を明かにしてどこの家庭にも當てはまる樣な分度は迚ても示されぬ。隨つてこゝでは家族の人數を夫婦に子供二人合せて四人暮しとし、月々家賃を支拂ふものと見、又一定の月收入を假定して、いろ〳〵な分度を立てゝ參考に供さうと思ふ。言はゞ應用分度論を

家屋所有者は家賃を見積りて貯へよ

試みるのである。附けたりに一寸一言して置きたいのは家賃のことである。家屋を所有してゐる人は家賃を拂はないでも濟む。けれども家屋は何年かの後には改築せねばならぬもの故、分內の生活費中から必ず家賃の見積り額を差引いて之を自讓資金の方へ廻して貯蓄すべきである。卽ち家屋を所持してゐる人は、借家人よりも家賃だけ餘計に貯金が出來なければならぬ。

さて分內五分、分外五分制の分度は一般の家庭に向かぬとすればせめては收入の六分で生計を立てたいものであるが、どうだらう。月收三十圓なら分內十八圓の生活費、分外十二圓の貯金が出來るから、五年間辛抱すれば（30圓－18圓）×12×5.716892＝823.232圓卽ち八百二十三圓二十三錢二厘の金が溜る。もし月四十圓取りの家庭が此の分度を立てゝ矢張り五年間辛抱すれば（40圓－24圓）×12×5.716892＝1106.643圓卽ち千百六圓六

十四錢三厘だけの貯金が出來る。田舍住ひの身で、少し金の使ひ方、金の活用、貧乏切扱け策等に注意して節約すれば此の分度でもどうにか暮しが立つて行かうが、東京のやうに何も彼も金の掛かる土地では無理である。一般には言ふべくして迚ても行ひ難からう。

安月給取りと分度の立て方

(三)　實生活に應用した分度

廣く會社のあらゆる階級を見渡すに一番生活に困つて居るのは三四十圓の月給取りであるから、こゝらの月收入を標準にして分度を立てたら必ず上中下一般の家庭に通じようと思ふ。さて收入の六分で暮すことが無理とせば七分の分内、三分の分外はどうであらう。卽ち

十年間辛抱の報酬

月收三十圓 ｛分内七分——二十一圓——生活費
　　分外三分——九　圓——貯　金｝

であるから、若し十ヶ年間此の割合で暮せば、(20圓－14圓)×12×12.841179＝924.565圓卽ち九百二十四圓五十六錢五厘の貯金となるが、二十圓の安月給取りでは分内七分の生活費では暮しが立つまい無理である。月收三十圓なら

月收四十圓 ｛分内七分——二十八圓——生活費
　　分外三分——十　二圓——貯　金｝

であるから、節約次第でまあどうにかかうにか都鄙を通じて遣切れよう。苦しからうが、もの〻十年間も辛抱して見給へ。會計檢査院長田尻稻次郎博士は、日本人は御飯に味噌汁・梅干・澤庵漬に豆腐か油揚さへ食べて行くと優に健康が保れると口癖のやう

に言うて居られるもの、質素に暮せば暮し方はどうにもならう。若し此の分度で十年間貯金すれば、(30圓－21圓)×12×12.841179＝1386.847圓　卽ち千三百八十六圓八十四錢七厘の金が溜り、すでに目的に手が屆いてゐる。

併し以上の分度は月收五十圓以下の人には何れも無理が加はつてゐるので、千圓欲しさに一時眞面目にやつても、中途でへこたれてしまひはせぬかと氣遣はれる。敢へて生涯といはずとも、せめては十年間位遣りつゞけ得る見込が立たぬ分度なら、初から繼續の出來る方法を取つた方が安全であるから、一般家庭には寧ろ內分八分、外分二分の分度がいゝ。これなら分相應の暮しといふべきもので、十年も辛抱すれば明日の爲に今日働く富者の仲間入りが出來て安心して生活して行けよう。今之を月三十圓取り、月四十圓取りの家庭に應用し、年利四分五厘の十年間の元利合計卽ち貯金高を

內外八分、外分三分

算出して見よう。卽ち月收三十圓の方はその生活費二十四圓であるから、(30圓－24圓)×12×12.841179＝924.564　卽ち九百二十四圓五十六錢四厘となる。千圓にはもう一ト奮發だといふきはどい所である。また月四十圓取りの家庭の方はその生活費三十二圓であるから(40圓－32圓)×12×12.841179＝924.565圓　卽ち千二百三十二圓七十五錢三厘の貯金となる。これな目的の千圓箱に手が屆いたも同樣である。

かくの如く分內七分では苦し過ぎるし、又分內九分では贅澤過ぎるから、分內八分といふ見當は一番間違がない。兎に角千圓の貯金を企てる人は月收と家庭の事情に相談し、俄かに多く溜めようと思はず、氣長に油斷なく徐々と溜めていけ。

分內八分、分外二分の暮し方を標準分度と定め、これを月給四十五圓取りの家庭に應用すると、

- 月收入（四十五圓）（天分）
  - 分內八分（廿六圓）
    - 經常費（廿五圓廿殘）
      - 今日のため
      - 明日のため
      - 今月のため
      - 衣食住費・薪炭費・電燈代・修養費・學費などに分內の八分を取る
    - 臨時費（十圓八十錢）
      - 吉凶のため
      - 不時のため
      - 補充のため
      - 醫藥費・雜費・租稅・交際費・通信費・衞生費・娛樂費・冠婚葬祭費などに分內の二分を取る
  - 分外二分（九圓）
    - 自讓資金（七圓二十錢）
      - 來月のため
      - 家族のため
      - 子孫のため
      - 永續貯金・教育基金・非常貯金などに分外の八分を取る
    - 他讓費（一圓八十錢）
      - 人のため
      - 世のため
      - 國のため
      - 寄附・救助・貸付などに分外の二分を取る

となるのである。

豫算の立て方と支出費目

（四）豫算の立て方

さて各生活費に幾らづゝ豫算して置くべきかといふことは豫算計上の實際問題として是非研究すべきことである。左に豫算の立て方について些か所思を述べて置く。

さて豫算の支出費用といふものは經節代幾ら、大根芋代幾ら、湯錢幾ら、通信費幾らなどゝ細かに分類してしまつて、動きが取れなくするよりは、大まかに別けて有無相通じ過不足相補ひ得るやうにするがいゝ。卽ち運用、活用といふことを主眼として編成しなければ、どうも實際の役に立たない。それで費目の名稱の如きも、經常費・臨時費・貯金の三つだけでいゝ。併し之を細別すると

・米　代（麥代、麵麭代も含む）

家賃（借地料も含む）

被服費（和服・洋服・袴・襯衣・羽織・足袋・手袋・靴下など）

副食費（魚類・肉類・野菜・乾物・鷄卵・牛乳等を含む）

調味費（味噌・醬油・鹽・砂糖・鰹節・味淋・香辛料代を含む）

薪炭費（石炭・炭團・瓦斯・木炭・薪・マッチをも含む）

修養費（書籍・新聞雜誌・代を含む）

學費（學資（授業料）校友會費・學用品代を含む）

電燈費（ランプ・石油・蠟燭代を含む）

義務費（稅金・組合費を含む）

器具費（炊事道具・食器・茶器・雨具・簡笥・時計其他すべての器具を含む）

雜品費（石鹼・齒磨粉・齒磨楊子・筆・紙・墨・帽子・下駄・靴・手拭・ハンケチ等其の他の日用品）

雜費（交際費・通信費・衞生費・理髮・結髮・湯錢・醫藥費・修繕費・娯樂費・酒・煙草・茶菓・冠婚葬祭費等を含む）

貯金

永續貯金（十年なり十五年なり一定の年限だけ据置いて引出さぬもの）

通常貯金（生命・動産・不動産の保險料又は病氣・婚嫁・家屋新築の場合に引出すもの）

などで澤山ある。此の中貯金は分外の二分の金を充用するのであるから、米代以下雜費までの一切の生活費は分内八分の金から支出しなければならぬ。

然らば夫婦子供三人暮しの、月收四十圓の家庭では各費用の支出割合を如何にすべきか。今月收入に對する割合を百分比及び歩合でまして見よう。卽ち

□收入　金四拾圓也　月給

□支出　金四拾圓也

内譯

經常費

一、米代……百分二十……二割
一、家賃……百の十六・七……一割六分七厘
一、副食費……百分の十一……一割一分
一、調味費……百分の三・三……三分三厘
一、薪炭費……百分の三・三……三分三厘
一、被服費……百分の一・七……一分七厘
一、電燈費……百分の三・……三分

一、修養費……百分の三・五……三分五厘
一、學費……百分の一・五……一分五厘

〆金二拾五圓六拾錢也

臨時費

一、義務費……百分の三・三……三分三厘
一、雜品費……百分の三・四……三分四厘
一、器具費……百分の三・三……三分三厘
一、雜費……百分の六……六分

〆金六圓四拾錢也

貯金

一、据置……百分の十四……一割四分
一、通常……百分の六……六分
　　金八圓也

となる。從來の仕來・惰力にさへ囚はれなければ四十圓の月收で八圓位貯金することは左程困難を感じまいと思ふ。若し暮せぬなら內職でも何でもして生活費を補へ。

併しこゝに上手に暮す方法がある。それは先づ全收入から預金を差引き、殘りの經常費と臨時費を日割にして一日の生活費を計算し、毎日の支出をして一日の生活費よりも少からしめるにある。例へば月收四十圓ならば先づ貯金八圓を差引くと、殘りが三十二圓にある。此の三十二圓が經常費臨時費の總額で、之を日割にした約一圓七錢は毎日の生活費の總額である。然るに毎日手許から支出すべき性質の費用は副食費・

月收入は日收入に割當てよ

電車賃一

見積り家賃

調味費・雜費の日割は約二十八錢であるから、たとひ生活費の日割が一圓以上に相當しても毎日約二十八錢以內でさへ生活して行けば月末になつても決して不足を生じることがなく、二十八錢以下に切詰めればそれだけ餘分が生じるのである。こゝに示した豫算に基づいて各戶とも豫算を作り、そしてこのやうに一日の生活費額をきちんと極めて節約すれば苦なしに金が溜まるのである。豫算々々といつてただ豫算ばかり立てゝもかういふ考で切廻さなければ餘裕が生じない。

さて電車の便ある大都會地に住む人ならば此の外に電車賃を要するが、これは暇々に圖書館に通つて修養費を節約し雜費を切詰めなどして充用するか、或は通勤上電車の必要なき地點に借家するとか、或は成るべく徒步して電車賃を節約するがいゝ。家屋を所有して居る人はその見積り家賃を必ず據置貯金に振向くべく、被服費・器具

學費に就て

費・租稅の如きは必要の起るまで通常貯金に加へて貯へ、又若し雜品費・雜費、其他各費用に過剩を生じた場合も亦必ず通常貯金に振向けて早く千圓溜める工夫しなければならぬ。學費卽ち子供の敎育費の如きは子供が生れると直ぐその月から僅かづゝでも經常支出として積立てるがいゝ。子供が大きくなつてもう就學する頃、學費積立の必要を感じるが如きは泥棒を捕へて繩を綯ふやうなもので時既に遲いと言はなければならぬ。生活の準備は何事でも手廻しを早くするがいゝ。後れては追付かぬ。

（五）千圓溜めるまでの年數

外分は天引せよ

さて前にもいへるが如く、豫算を立てるには先づ收入中より必ず分外二割の貯金を控除した後、其の殘金を各費用によく精確に配當すべく、妄りに過剩の見積をしてはならぬ。若し過剩に見積り得る程の餘裕があるならばいつそ貯金をもつと增額するがいゝ。又月末になつていよ〳〵支拂する場合に至らば先づ第一着に月收中より貯金高を天引してしまつて、いつまでも之を手元に置かず、さつさと銀行なり郵便局へ持つて行け。かく分內八、分外二の割合の分度を立て豫算を作り、そして各自の月收に應じて必ず貯金して行くなら何年後に千圓溜まるか。但し年利五分、元加利子の計算年一回とし一ヶ年の貯金高を以て千圓を割ると元利合計が出る。之を貯金表の元利合計に對照して、期間の近似數を求めて答とする。

千圓溜めるまでの年數の求め方

一、月收十五圓の人なら、毎月の貯金高三圓ゆゑ

1000圓÷(3圓×12)=27.7　十七年後

二、月收二十圓の人なら、毎月の貯金高四圓ゆゑ

1000圓÷(4圓×12)=20.8　十四年後

三、月收二十五圓の人なら、毎月の貯金高五圓ゆゑ

1000圓÷(5圓×12)=16.6　十二年後

四、月收三十圓の人なら、毎月の貯金六圓ゆゑ

1000圓÷(6圓×12)=13.6　十年後

五、月收三十五圓の人なら、毎月の貯金高七圓ゆゑ

1000圓÷(7圓×12)=11.9　九年後

六、月收四十圓の人なら、毎月の貯金高八圓ゆゑ

1000圓÷(8圓×12)=10.4　八年後

七、月收四十五圓の人なら、毎月の貯金高九圓ゆゑ

1000圓÷(9圓×12)=9.2　七年後

八、月收五十圓の人なら、毎月の貯金高十圓ゆゑ

1000圓÷(10圓×12)=8.3　七年後

九、月收五十五圓の人なら、毎月の貯金高十一圓ゆゑ

1000圓÷(11圓×12)=7.5　六年後

十、月收六十圓の人なら、毎月の貯金高十二圓ゆゑ

1000÷(12圓×12)1=6.9　五年後

十一、月收六十五圓の人なら、毎月の貯金高十三圓ゆゑ

1000圓÷(13圓×12)=6.4　五年後

十二、月收七十圓の人なら、毎月の貯金高十四圓ゆゑ

1000圓÷(14圓×12)=5.9　五年後

といふ年數を要するのである。

要するに豫算は正しい分度によつて作製すべく、分度は實に齊家理財の本源である。富むも貧するも榮えるも衰ふるもたゞ皆分度の立て方如何にある。分内八分、分外二分の分度必ずしも萬人萬戸の軌範すべきものでないから、收入多くして家族の少い人や、獨身者や、物價の安い田舍に居て收入の割合に餘裕の生ずる人は自ら進んで七分三分、六分四分、或は五分五分の分度を立てゝ實行するがいゝ。とにかく分度の正否は貧富のわかれぢである。二宮尊德が、

遊樂分外に進み、勤苦分内に退けば則ち貧賤其の中に在り。遊樂分内に退き、勤苦分外に進めば則ち富貴其の中に在り。

と誡めてあるのは千圓溜めようが溜めまいが、凡そ一家の主夫たり主婦たるものゝ必ず服膺すべき千古の金言である。

金の奴隷となる勿れ

第六　上手な暮し方

月收三十圓の人が千圓溜めるには、月六圓づゝ貯金して行つても凡そ十年掛かるのであるから、月々の生活費は僅かに二十四圓に過ぎない。今假りに一ヶ月二十四圓の金で夫婦に子供合せて三人暮しの生活を立てゝ行かうとするには細かいところにもよく注意して、すべての支出が決して豫算を超過しないやうに努力しなければならぬ。と言つて、金の奴隷になつてしまつて、何も彼もじみ〳〵ぎり〳〵がみ〳〵して食ふ物もろくに食はず、着る物も着ず、見る物も見ず、行くべき所へも行かず、義理を缺き人情に外れたこまでしても、金を溜めるやうな遣り方には贊成が出來ない。どうせ溜めるなら、あまり苦しまず吝嗇なことをせずに富を作るがいゝ。暮し方さへ上手

上手な暮し方の研究

にすればそんなにしみつたれをせず、又苦しまずとも金は幾らでも溜め得ものである一生懸命に働いてけち〳〵しながら金の溜まらぬのは暮し方が下手だからである。苦しまずに身分相當に金を溜めようとする者は宜しく經濟的な暮し方の研究を重ねて、先づ豫算通りの金で生活することを工夫し、更に進んでは豫算に見積つた金額よりも少い金で暮しを立て其の殘餘までも貯へるやうに家事萬端を切り廻さねばならぬ。かうすれば月々分外として豫算した一定の貯金額に外に更に貯金が加はるのであるからずん〳〵金が溜つて行く、面白いやうに殘つて行く、驚くばかりに殖えて行く。

金を活かして使へ又物を粗末にするな

そんならどうすれば上手に暮せるか。上手な暮し方の研究、これは何人も耳を澄まして聞かうとする實際問題であらう。

上手な暮し方をするのに大切なことが二つある。それは何事に對しても經濟的な考

經濟と不經濟

で金を活かして使へといふことは、すべて物を粗末にせず、廢物の末に至るまで利用されるだけは利用して役に立てよといふことである。例へば經濟的な考で金を使はうとせば有るに任せて不用な無駄な物を買込むとか、買込んだ物を未だ全く使ひ果さずに同種のものを又新に買入れ買溜めて置くとか、自ら店へ行つて現金で買へば安く買はれるものを御用聞きに任せて帳面買をするやうな不經濟極まることが出來なくなり眞に必要に迫られて良い品物を現金で安く買ふといふ習慣がつく。又どんな物でも粗末にしまいと心掛けて居れば、米・野菜・魚肉類・味噌・鹽・醤油・砂糖等の如き食料を始めとして衣服・冠り物・穿物等の如き手廻り道具、鍋・釜・皿・鉢の如き炊事具・食器・筆・紙・墨・鉛筆等の如き文房具、薪炭・瓦斯・石油・蠟燭等の如き燃料、燈料其の他一切の諸器物の取扱が丁寧になるから、其の用途に應じて使はれるだけ

眞に必要に迫られて良い物を安く買へ

使ひこなすことになり、其の上古着・紙屑・密柑箱・古足駄等の如き一切の廢物をも何等かの役に立てようといふ健氣な心が起るのである。眞に必要を感じた時、良いものを安く買つて有効に用ひよう物を惜んで廢物までも利用しようといふ心掛が無く、有るに任せて惜氣もなく金をざぶざぶと使つたり物を粗末にしたりするやうでは迚も上手に暮せるものでない。何時も足らぬ、因る、苦しい一方で何年經つても金が溜らず、昨日の爲に今日働き今日の爲に今日稼ぎ今日の爲に明日勤め、去年の爲に今年稼ぎ今年の爲に來年働かねばならぬといふ始末で、幾ら働いても其の甲斐がなく、前途は眞暗闇である。こんな事では生きてゐても生甲斐がなく、所帶を持つても樂しみがあるまい。個人としても公人としても生甲斐のある生活を營まうと思ふ者は金を溜めよ。金必ずしも多きを望むに及ばぬ。先づ千圓の小金を溜めよ。千圓あれば子供に專

一家の生計基金

生活費は大小如何樣にも伸縮自在である

門の高等教育が出來る。子供が無ければ小事業の資金に向けてもいゝ、一家生計の基金として永く積立てゝ置いてもいゝ。金を溜めようと思ふなら、慾張つて餘り收入を殖さうと思はず寧ろ現在の境遇に甘んでて上手に暮せ。上手に暮さうと思はゞ夫も妻も頭をよく經濟的に動かせて生活上のあらゆる無駄を省き、生活費を切詰めるのに如くはないのである。

暮し方は千差萬別で、上を見ても際見がなく下を見ても際見がない。上見ればあれも欲しこれも欲しだらけで、慾に目の無い人でもむら〳〵と起る慾を押へることが出來ず、惡い事とは知りながらつい贅澤に流れ易いものである。それだから決して上を見るな、必ず自分より下の遣り口を見て暮せ。上を見傚ふより下を見て暮せば、五十圓取りの人は四十圓でも暮しが立ち、四十圓取りの人は三十圓でも暮しが立つ。かう

して暮すのが萬全の策であつて、招かずとも福の神が喜んで來る。然るに月收が三十圓であるからとて三十圓をすつかり使つて暮しを立てゝか行かうとするが如きは分外れの贅澤、身の程を知らぬ無謀な危險な暮し方である。

口先ばかりで實行方法の伴なはぬ議論は滋味に乏しいから左に上手に暮す方法の實例として、生活上の無駄の省き方と生活費の切詰め方について其の主なる事柄を摘記して見よう。但しその應用生活法は直接家事の任を司る主婦の役目、主人の口添も亦頗る肝要である。

無駄の省き方十八戒

第一戒

一、日に三度の食事に用ひる食品は滋養分の多い安價なものを選べ

高價なもの、體裁のよいもの、珍らしいものが必ずしも滋養分が多いとは言へず却つて安値で體裁が惡くて、有りふれた物が案外滋養に富んでゐることがある。食

カロリーとは何ぞや

料は此の點と直段に注意して買へば隨分節約し得るものである。滋養物といへば直ぐ鷄卵・牛肉・牛乳等を思ひ出すが如きは食物に對する知識淺薄な證據である。

總じて魚肉類よりは野菜類、野菜類よりは豆類芋類の方が遙かに滋養分の多い事は學者の等しく唱道する處である。安價滋養食品として用ふべき魚肉類は鹽秋刀魚鹽鰯・鰤・鱈・目刺・鹽鱒・鹽鮭・鮒・鹽鯖・鮫・鰌・鹽飛魚・鯨皮肉・數の子・蜆・蝌等である。牛肉・鷄肉・鯛・鮪・鰈・平目・鰻・鯉・牡蠣・海鼠の如きは滋養分の少い高價極まる食品で、質素を旨として千圓溜めようといふ人の家庭には斷じて用ふまじきものである。

さて一カロリーとは一キログラム（我が二百六十七匁弱）の水を攝氏寒暖計の一度だけ高めるのに要する熱量のことであつて體重十四貫の日本人なら凡そ三千四百

四十カロリーの總熱量を發するだけの食物を攝れば十分に活動が出來る。之を日本人の標準食といひ、これ以上過食しても決して身體の營養になるものでなく、悉く糞になつて體外に排泄されてしまふ。此の標準食は八匁乃至二十七匁の蛋白質と、五匁餘の脂肪と、百二十三匁の含水炭素から得られるが、これに適量の水と鹽分と灰分とを攝れば無病息災で生活して行けるのである。上手に生計を立てようとする人は食品に對して少くともこれ位の知識が必要である。要するに食物は安價滋養主義で押通せ。食品の經濟は暮し方に大なる關係があるから保健上差支無い限り切詰めて貯金せよ。

二、毎土曜に次の一週間分の献立を作れ

献立なしに日々の料理をしていくのはどうしても無駄が多い。献立を立てゝ置け

ば、買物をするにも、煮燒するにも何を買つてそれをどうするといふ順序が立つから、金も物も時間も決して不經濟にならない。

三、安い家賃の家に住め

こゝに十二圓の家と十圓の家があるとすると、十圓の方は十二圓の家に比べて見劣りがする。しかるに實際住んで見て二圓だけの不便があるといふ譯でもないのに、構が立派だとか人前がいゝとかいふ處から一般に十二圓の家を借りたがるのは人情である。身分に合はぬと思つたら高い家賃の家に住みたいといふ間違つた虚榮に囚はれた慾望を押退けて安い十圓の家を借り、そして月々二圓づゝ貯金すると共に心の中で自分は今十二圓の家に住つてゐるのだと思ふがいゝ。かうして千圓溜めて一家の基礎が確立した後なら高い家賃の家に住むも宜らうし、自分で好きな間取り

第六　上手な暮し方

の家を建てゝ住むも亦よからう。一生借家するのは馬鹿らしい話である。四五百圓も掛けたら實用向きな家が建てられようから、千圓貯金の掛金の外に家屋建築費として月々幾らかづゝ別途に積立てる意氣込と努力があつてほしい。月十圓の家賃を二十年間支拂ふものとすれば元金だけでも二千四百圓、これを年利四分の利子で計算すると三千七百十六圓三十錢四厘となる。こんな莫大な家賃を拂ふなら儉約して金を溜めて住宅を建てた方が遙かに得策である。また家屋を所有してゐる人は必ず家賃を見積つて貯金せよ。家を建てたら必ず火災保險に加入せよといふことも附加へておく。

四、買物は自ら出掛けて行つて現金で買へ

御用聞さ任せの帳面買ひは質の悪い品を高く賣付けられるので不經濟の骨頂であ

る。早い話が御用聞きの八百屋から買へば大根一本が四錢乃至五六錢も取られるけれども、店へ行けば三四本一把のが十錢位で買へる。僅かの時間を利用して一寸町へ出掛けて行つて、すべて良い品物を安く買ふのが生活費を切詰める一法である。

五、着物を始め一切の手廻り道具は間に合へばよい主義で過せ

買ふ金があつても、一寸した餘所行きや平常着に絹物を用ふるが如きは贅澤過ぎる。着物は暑さ寒さが凌げて不體裁で無ければ澤山だ。中井竹山曰く「衣服諸道具のみ奇麗を好むは世間一統なり。我が心の見苦しきを如何と思ふ人なし、淺ましからずや。」と。着物や道具は何でもいゝ。精神を立派にし人格を高くし金を溜めよ。金を溜めようという心なら、洋服でも外套でも決して新調せず、裄丈の合つた友人の古着を二三圓で買ひ、それを丁寧に手入して貰つて尚五六年も用ひる位でなけれ

第六　上手な暮し方

ばならぬ。形振を着飾つて居ては決して金が溜らぬ。帽子でも帶でも足袋でも下駄でも總べて間にさへ合へばよいと堅く心に極めてしまつて、贅澤なものを求めず高價なものを買はず、流行を追はず、又其の物の本質がよく〳〵傷むまで用ひられるだけ長く用ひるがいゝ。着物を始め一切の身廻り道具は生活費に大なる關係を有つてるから何處までも實用主義で押通して行け。そして貯金せよ。

第六戒

六、茶を廢して麥湯を用ひよ

月に六十錢の茶を用ひると假定し是を麥に代へると月二升三十錢位で間に合ふから其の差額を十年間貯金すると、(60錢－30錢)×12×12.841179＝46.228圓即ち四十六圓二十二錢八厘となる。

第七戒

七、理髮、鬚剃り、結髮は成るべく自分の家でせよ

月に一回の散髮料を二十五錢鬚剃を十五錢とし、これを自宅で濟ませば十年間にどれ程の金が浮ぶか。十年間にバリカン三挺使ふものとし、一挺の代價を二圓と見ても(25錢＋15錢)×12×12.841179－2圓×3＝55.637圓即ち五十五圓六十三錢七厘だけ切詰められる。之に子供の散髮代、主婦の結髮料を加算したら可なりの金高にならう。

第八戒

八、酒を節せよ、出來るなら思切つて禁酒せよ

晩酌二合を一合に減ずれば一合十錢と見ても十年間には、10錢×365×12.841179＝468.703圓即ち四百六十八圓七十錢三厘の貯金が出來る。若し十年間禁酒すれば、10錢×2×365×12.341179＝937.406圓即ち九百三十七圓四十錢六厘の金が溜るではないか。酒は生活上日常何の必要もないものであるから成るべく節酒せよ、禁酒せよ。

第九戒

九、煙草を節せよ、出來るなら斷然禁煙せよ

二日に敷島一個づゝ吸うてゐたら三日に一個に減じ、或は敷島を朝日にし、朝日をカメリヤにせよ。朝日にすると（12錢－10錢）×10×12×12.841179＝30.819圓　卽ち三十圓八十一錢九厘の金が溜り、カメリヤにすれば同じ十年間に、（12錢－8錢）×10×12×12.841179＝61,637圓　卽ち六十一圓六十三錢七厘だけ切詰められる。若し二日に一個づゝ吸ふ朝日をやめたら、10錢×15×12×12.841179＝33.141圓　卽ち三十三圓十四錢一厘の經濟になるではないか。酒をも煙草をも禁じたなら必ずその金を貯へなければならぬ。さうでないと、酒を飲まぬから煙草を吸はぬからとてそれだけ金が溜るではなし、飲めるものなら矢張飲みもし吸ひもした方がいゝといふ馬鹿な矛盾したことを平氣で言ふやうになるである。又卷煙草は不經濟極まるから何處へ行くにも刻煙草だけにせよ。それもさつきをあやめに代へ、あやめをはぎに代へても我

慢の出來ぬものではない。慣れさへすれば福壽草でも白梅でもあやめでもはぎでも皆同じことである。月に四十匁一本づゝ吸ふものとして、あやめをはぎに代へたら毎月十錢づゝ浮き、一年に一圓二十錢浮きる。之を月々貯金すれば十年間に 10錢×12×12.841179＝15.409圓　卽ち十五圓四十錢九厘溜るのである。

十、さほど心要でない物や安物を買ふな

一寸町へ出て見ると、よく珍らしいものが目について、これも買ひたい、あれも欲しいと慾が手を出させる。世の中は何商賣に限らず、すべて其の商品に目新しい趣向を凝してお客の慾望をそゝり立て引付けようとしてゐるのであるから、うつかり手を出して無駄な金を吐き出さぬやう注意せねばならぬ。たゞ珍らしい、目新しいのに釣込まれて、必要の無いものをあれもこれもと買立てゝは決して金が溜らぬ。

金を溜めようと思はゞ、溜まるまで明盲目になつて暮せ。また安物買ひの錢失ひは古人の經驗が生んだ貴い教訓であつて、買物の秘訣といつてもいゝ。

第十一戒

十一、初物を買ふな

野物でも魚類でも果物でもすべて走りは高價である。走り卽ち初物は珍らしいといふことだけで外に取所がない。初物買ひの錢失ひ。それよりは出盛りの安い時に買うた方がずつと經濟である。

第十二戒

十二、飽くまで廢物の利用に心掛けよ

世の中には一物として不用なものが無く、利用さへすれば何かの役に立つ。廢物を利用すればそれだけ金が經濟になるではないか。

第十三戒

十三、買食ひと間食を慎め

三度の食事でしつかり腹をこしらへたら間食の必要がない筈である。間食は惡い習慣だ。慎め、廢せ。

第十四戒

十四、飲食店へ行くな

外出したのを機會に蕎麥屋・餅屋・牛肉屋・鮨屋・天ぷら屋・料理屋等へ立寄つて飲食するほど不經濟なことがない。ちよいと肉屋で飯を食べても七八十錢位は直ぐふいになる。月給三十圓の人が一圓使へば一日骨折損の草臥儲けとなる勘定、こんな馬鹿らしいことをしては決して金が溜らぬ。特に田舍などでは金を持たずに料理屋・牛肉屋などへ行つて飲食して、其の代金を後から仕拂ふ習慣がある。一度が二度・二度が三度と重なればなか〳〵拂へなくなる。これは料理屋から利息の付かない借金をすると同じことで、最も避くべきことである。愉快に其の日を送るには何

第六　上手な暮し方

も敢へて三味線を聞き酒池肉林に遊ぶ必要がない。顏回の如く一簞の食一瓢の飲、陋巷のうちに起臥してゐても、心の持ち樣一つで無限の愉快を其の間に味ふことが出來るではないか。

十五、盆・暮・正月・見舞・冠婚葬祭等の贈物は精神的、實質的なれ

贈物は他人の好意を謝し、或は悲喜相分つ美しい同情の心に基づくものであるから、見榮や外見に拘泥して身分外れた物を贈る必要もなければ、また徒らに數量の多きを誇ることも無い筈である。それにも拘らず、金張つた贈物を澤山持つて行かなければ極りが惡いとか失禮だとか思ふのは既に虛榮である。二宮翁夜話に「それ入るを計りて天分を定め、音信贈答も義理も禮儀も皆此の內にて爲すべし。出來ざれば皆止むべし。或は之を吝嗇といふ者あるとも、そは言ふ方の誤なれば意とすること

二宮翁夜話に曰く

と勿れ。何となれば此の外に取るべき處なく、入る物なければなり。されば義理も交際も出來ざれば爲さどるも卽ち禮なり、義なり、道なり。此の理を辨へて惑ふこと勿れ。是德行を立つる初なり。己が分度立たざれば德行は立たざるものと知るべし」と敎へてあるが、まことに金言であると思ふ。虛榮は無駄使ひの外に身を亡ぼさしめる恐るべき惡魔である。

十六、冠婚葬祭の費用を節約せよ

婚禮は一生に一度の祝典であるから大いに酒宴を張つて愉快に過すのは强ち惡いことではない。しかし祝言の夜にだけ用ひる衣服や、飲食に費す莫大な金の大半は之を節約して、記念のため子孫の爲に貯金するか、又は記念として有用な樹木を栽植するか、事業擴張費に用ひるか、土地を買入れるか、とにかく有効に使用すべ

第十七戒

きである。葬式は極めて嚴肅なるべき性質のものであるから、わざ〳〵金を掛けて賑やかにするのは間違つてゐる。況して借金までして葬送を盛にするが如きは愚の至りである。葬儀の費用の幾分は必ず節約して、それを死んだ人の記念になるやう有効に使ふがいゝ。冠婚葬祭費の使ひ方は世間一般に亂暴であつて、隨分無駄が多過ぎる。

十七、來客を饗應する時はいつも有合せの物を用ひよ

來客があると直ぐ蒸菓子を取寄せたり、珍らしい果物を買うたりするのは無駄である。煎餅でも何でも有合せの茶菓を出すがいゝ。誠心を以て待遇すれば何を出しても失禮にはならない。殊に蕎麥や鮨を注文したり、牛肉や刺身を取寄せたりして氣張るのはお互に冗費を增すばかりでなく、先方に對して氣の毒な思をさせること

も無いといへない。御飯を出すなら矢張り有合せの副食物で澤山である。金が無い癖に飲食物に不相應な金を出して饗應するのは無駄な惡い習慣である。

十八、二重生活の負擔を輕減せよ。

昔の日本は實に暮し易いよい國であつたけれども、唯今の日本は世界でも暮しにくい國として數へられてゐる。かうなつた大なる原因は西洋中毒の結果極めて無駄の多い二重生活を營んで居るからである。考へて見給へ。われ〳〵は日常筆を使ひながらペンを用ひ、和服を着ながら洋服を纏ひ、下駄を用ひ靴を穿き、鞄と風呂敷を併用してゐるが如く、衣食住のすべての物が和洋兼用である。和洋何れか一つで濟むべきものを二つ兼用しなければ通らぬやうな習慣に囚はれてしまつた世の中であるからとて、和洋五分々々に用ひて行つては生活費ばかり嵩んで迚ても遣り切れ

ない。どちらか一方を主にして、出來るだけ二重生活、複式生活の費用を節約し無駄を省かなければならぬ。

其他薪炭の用ひ方、器具の整理、車馬賃の節約、買物など、注意すべき事柄がいくらもあるけれども、一々噛んで含めるやうに說き立てずとも、進んで千圓溜めようといふ決心の人ならば自ら節約が出來よう。學問でも金溜めでも何でも同じ事、他人から教へられてするよりは自ら考へ出した獨自獨創の方法が一番いゝ。要するに食ひたい。飲みたい、着たい、見たい、聞きたい、行きたいなどゝといふいろ〳〵さまぐの慾望や、我儘などに打勝たなければ一家の經濟がうまく立たぬものであるから、隨時に隨所にたゞ慾望に打勝つ工夫せよと極言して置く。板倉伊賀守の歌に

欲望に打克て
味ふべき歌

手を出して及ばぬことのあるぞかし

とある。これ眞に味ふべきものである。

笠着てくらせ己が心に

一定の収入以外に金を取れ

定収入以上の増収法

第七　定収入以外の收入を得る方法

坐して食へば山をも空しといふ。二十圓なり三十圓なり五十圓なり月々幾らときりきまつた一定の收入以外に少しも餘分の金が取れなくては、たゞ出すことにのみ追はれて思ふやうに捗々しく金が溜らぬものである。幾ら僅かの金でもいゝから定收入以外に月々收入を得る方法を講じて、分外の貯金高を餘計にすることが何よりも大切である。

どうしたら定收入以外に金が取れるか。金を取らうと思ふならば先づ餘暇を利用して働ける所の適切有利な副業を見出せ。東京市内の小學教師には放課後の二三時間を利用して家庭教師をやつてゐる人が隨分多いが、一週間に三日、一日に二時間位づゝ

第七　定收入以外の收入を得る方法

第七　定收入以外の收入を得る方法

敎へて毎月十圓内外の報酬を得てゐるのである。又時間を繰合せて敎育雜誌へ投稿しても月々多少の原稿料を得ることが出來る。此の餘分の收入を生活費の補充に使はず、質素節約してそつくり貯金したならば、分度による貯金以上の貯金か出來る譯である。

しかしすべての月給取りや一般の家庭では迚ても家庭敎師を望む譯には行かないから、他に金の取れる副業を研究せねばならぬ。一寸考へると世の中は人が多過ぎても有付く仕事が無い樣であるけれども、本當に働く氣になつて求めると幾らもあるものである。注意して新聞の廣告を見給へ。有利な副業が幾らもあるではないか。仕事が無いといふのは眞に無いのではなくて、心から働く氣になつて尋ね出さないからである。副業などするのは世間體が惡いからと體裁を飾つて旦那樣氣取り、奥樣氣取つ

て居ては、たとひ仕事があつても有付ける筈がない。そんなに氣取らず、體裁振らず、家庭の境遇に適した割のよい仕事を見出す工夫をした方がいゝではないか。蜀山人の歌に

世の中は何のへちまと思へども
　ぶらりとしては暮されもせず

とある如く、ぶらりしやらりとして居ては滿足に日々の暮しも立てられまい。況して千圓なり一萬圓なりを溜めることをやだ。

元來副業は其の家庭の事情、其の土地の狀況に適したものでなければならぬ。甲の家庭に適した仕事が必ずしも乙の家庭に適するものではなく、又甲の土地に適したものが必ずしも乙の土地に適するものではない。隨つて一般家庭に對してこれ〳〵の副

業をせよと奬めることが出來ない。

けれども、どこの家々にも向くものは養鷄である。プラマでもコーチンでも、ミノルカでもよいが、とにかく卵肉兼用種の雛を牡一羽牝六羽位飼養して見給へ。さう手數が掛らず、餌は臺所の殘滓を利用し、それに青菜・粉米・貝殼位を與へただけで其の産卵から生ずる純益が毎月五六圓は確實である。少く見積つて月四圓の純利と見、之れを十年間貯蓄したら　4圓×12×12.841179＝616.376圓　卽ち百十六圓三十七錢六厘の元利合計となる。養鷄は我が家の副業としてどこの家庭でも永久に從事すべき確實有利なものと言つていゝ。鶉飼や藥草栽培も莫大の利益がある。

家屋敷を所有してゐる人は桐の木を栽植せよ。夕日の當らない屋敷の周りか、畑の隅々に四五十本位植ゑたら、其の年には金にならなくとも、二十年後には一本三十圓

養鷄

桐樹を植ゑよ

位で賣れる。卽ち一千圓以上の貯金をしたも同樣である。而かも月々掛金の必要がない、氣長に二十年も辛抱してゐれば濡手で粟を摑むやうなものである。又栽培に手數が掛るではなし、肥料は下肥で澤山であるから之とて殆ど金が掛らず、誠に割のよい家庭副業といふべきである。假りに桐の苗木一本の直段を十錢づつと見れば五十本で五圓、此の金を二十年間五分の年利で据置貯金したところが、5圓×(1＋0.05)^{20}＝13.267圓　卽ち十三圓二十六錢七厘しか溜らない。然るに此の金で桐の木を植うれば同じ二十年間に千圓になるのであるから、其の利殖に於て天地の差があるではないか。言葉を換へていへば一度に五圓の桐の苗木を植ゑるのは、1000圓÷34.719252÷12＝約2.41圓卽ち二十ケ年の間月々二圓四十一錢ばかりづつ貯金して行くのと全く同じ結果を來たすのであるから、之を二十年間月一定の收入以外に二圓四十一錢ばかりづつ餘分に

桐樹の栽培と貯金の比較

取つたものと見做すことが出來る。桐・落葉松・果樹等の栽植は月々餘分の收入が取れない。けなども其の結果に於ては餘分の收入を取つて貯金をしたと同じことになる。試みに二十本も植ゑてはどうか。もし植ゑるなら紫色の花咲く方がいゝ。白い花の咲く方は木質が劣つてゐるからである。

東京・大阪・名古屋・長崎のやうな大都會に住んでゐる人は其の職業の何たるを問はず、働く氣にさへなれば月々七八圓を得る位の內職ならば幾らもある。併し地方ではなか〳〵さうは行くまい。それかと言つて懷手してぼんやり時間を潰すのは勿體ない事であるから家屋敷を有つてゐる人は出產・入學・卒業・昇級等其の他種々の記念として梅・杏・桃・柿・栗・梨・椙櫨・柑橘・無花果・枇杷・櫻桃・林檎など、それ〴〵其の土地の氣候、土質に適したものを二三本位づゝ栽植してはどうであらう。現

に田舍に行つて見ると、桃・梅・柿・栗などを一二本づゝ植ゑてゐる家があるけれども、植ゑたまゝで自然の發育に任せ、少しも之を肥培せず整枝せぬから、年と共に收穫多かるべき筈の果樹があべこべに年一年と樹勢が衰つて結實が少なく、又年切れがするといふ有樣である。これは利殖し得べき金を遊ばせ寢かせて置くやうなもので誠に不利益不經濟なことゝ言はなければならぬ。梅を植ゑたら、柿を植ゑたら、各々その木に適した肥料を與へ不用な枝を剪定して、實りを多からしめなければなるまい。假りに柿二三本植ゑて其の實の大半を自家用に供し、其の殘りを三圓五十錢づゝで賣つて貯金すれば十年間に、1.5圓×12.841179＝44.944圓卽ち四十四圓九十四錢四厘溜る。毎月餘分の收入を得る道がないなら、一ケ年を期して定收入以外に餘分の收入を得る方法を講じなければならぬ。幾ら僅少の金でもいゝ。塵が積れば山となるではないか。

妻女の内職

第七　定收入以外の收入を得る方法

養蠶もいゝ、桑の裁植もいゝ。養兎もいゝ、養鯉もいゝ、養蜂もよし、藥草の裁培もいゝ、筆耕もいゝ、通信販賣もいゝ、煙草・文房具・切手・印紙等の小賣もいゝ、貸本屋もいゝ。何なりと副業を見付け出すことが急務である。

又人の妻女たる者が夫の收入ばかり當てにして徒らに眠食してゐるのは惡いことである。たとひ一人二人の子供があつても、働かうとさへ思へば幾らも働けるものである。働いて金を取つて、夫をして内顧の憂なからしめるのが妻の本分ではないか。一日十錢でも五錢でも働けばそれだけ夫の收入が浮きる。働いた金で買喰ひや自分の衣髪の料などに使はず、出來るだけ節約して溜めなければ働いた効果があらはれない。一日五錢づゝ働いても月に一圓五十錢、年に十八圓の儲である。之を月々貯金すれば1.5圓×12×12.841179=231.141圓　卽ち十ヶ年に二百三十一圓十四錢一厘の元利合計とな

家庭副業は子女の教育にも有効である

年末賞與の貯蓄

るではないか。女の手内職としては和服の仕立物・ミシン・刺繍・編物・バテン・機織、琴や活花の師匠などいろ〳〵有利な仕事がある。子供が居らないなら商店の事務員などに通ふのも必ずしも惡いことではないが、一般には出來ない相談であらう。

とにかく家庭副業は一家の基礎を固め生活を健實ならしめる爲にも、定收入以外の收入を取つてそれを貯金するためにも、子女をして勤勞の美風に慣れさせるためにも極めて緊切なことである。坐して食へば山をも空しとやら、日々夫が得て來る僅かばかりの收入を當てにして、妻女が坐食してゐるやうなことは大いに耻づべきことゝ思ふ。人間は手足の動く限り大いに働かなければならぬ。働くのが人間の本務ではあるまいか。

第七　定收入以外の收入を得る方法

商店員、銀行員等が貰ふ年二回盆暮の賞與、官公吏教師等の年末賞與は全く定收

賞金の貯蓄

第七　定收入以外の收入を得る方法

入以外の收入である。此の餘分の收入までも生活費の補充に用ひたり、飲食費に費したり、着物を買ふたりするやうなことでは駄目である。全部貯金しなくとも半額以上は是非貯へる方針でなければならぬ。

新聞雜誌の文章・和歌・俳句・都々逸の懸賞、其の他各種の懸賞に應ずることなども定收入以外に收入を得る方法の一つである。たゞ單に金を得る目的から應募するならば、きつと當選するといふ自信あるものでなければならぬ。さも無いと紙代や切手代と時間とを合せて損することになるから十分注意せねばならぬ。

金は生活の方便物

第八　金の溜め方

(一)　貯金と投資

食つて行くにも金、事業を始めるのにも金、幸福を得ようとするにも金で、金が無ければ殆ど何事も出來ぬ。金は生活の方便物であつて金を作るのが人生の目的でないことは誰にも分り切つた道理である。けれども、其の人の身分相應な金の必要なことも亦明かな道理であらう。恒産無きものは恒心無しとの誡めは卽ち分相當の金の必要を道破した明言である。誰やらの歌に

世の中はみな風鈴と思ふべし

金が無くてはならぬ身の上

と諷してあるのは實に尤もなことである。

一定の財産がないと安心して生活することが出來ず、とかく心が暗い方に悪い方に傾き易いものである。安心して此の世を渡るには先づ一定の財産を作ることが大切である。金即ち財産を作る方法に二つある。一つは貯金で他は投資である。

投資も亦貨殖の一方法

資本を投じていろ〳〵の事業を始めたり、株式賣買をやつたり、米・生絲の相場をやつたりするのは、その投機が當れば儲が莫大なものである。けれども、若し失敗すれば元も子もなくしてしまはなければならぬ。時機がよくて當れば儲も大きい代り夫だけ危險が伴なうてゐる。一方に於て一攫萬金の溫かい夢にあこがれ、一方に於てもし失敗したら着た切り雀の裸一貫になつても運否天賦と諦めることの出來る人ならば

相場に手を出すことは避けるがよい

相場でも何でもやれ。此の方は毎月僅か四五圓づゝ貯金して行くよりは早く金が溜るけれども既に僥倖を當てにし、射利をのみ目的としての儲け仕事であるから、いつどんな大失敗を招かぬとも限らぬので、廣く誰にも彼にも奬むべき金の溜め方ではない。相場に手を出すことは寧ろ避くべきことである。僥倖を恃む心が起るととても眞面目に働けるものでない。但し實株の賣買、鞘取りなら頗る安全有利であるが、それを遣るまでには相當に研究せねばならぬ。けれども一たび相場で儲けた味を覺えるともう世の中の仕事が何も彼も馬鹿らしくなつて、四五十圓の月給を貰つて働いたり、一錢二錢の金の出入にこせ〳〵して質素だの節約だのと言うてることが子供の飯事のやうに見えて來る。若しかうなつたら人間はもう駄目だ。怠惰けて仕事を嫌がるのは悪いことである。けれども、相場に手を出して遊んで金を取る事も亦悪いことである。人

第八　金の溜め方

細く長くを標語とせよ

間の尊いのはせつせと働いて、其の働いて得た金で暮しを立て、萬事に氣を付けて生活費を節約し、そして自分のため家族のため子孫のため、國家のために金を貯へて行くところにある。僥倖を當てにせず運を恃まず、自ら勸勉努力して將來に備へる覺悟があつてこそ人間らしい心が起き、人間らしい生活も出來るのである。だから財産を作らうとするには決して投機心を起さず眞面目に働いて少しづゝ貯金するに限る。千里の旅も一足から始まる道理、細く長く主義で蜜蜂のやうにせつせと働いて溜めるのが最も健實な方法である。相場の如き投資によつて儲けた金は又儲けられるといふ心から直ぐ湯水やうに惜氣も無く使ひ果してしまふものである。けれども、身の程を守つて長い年月の間苦心して蓄へた金は容易に使へるものでない。

金が欲しくば眞面目に働いて貯金せよ。金が欲しくなくとも働いて得た金の幾割幾

金を溜めよそれが厭なら死んでしまへ

金溜めの五大心得

分を貯へて置くのは人間の務である。貯金心のない人は何時まで經つても獨立自營が出來ず、人の厄介にばかりならなければならぬ。安田善次郎氏が青年に對つて「貯金しろ、それが厭なら死んでしまへ。」と教訓して居るが、金を溜める心の無いやうな人は一人前の生活が出來ない。人と生れて一人前の生活が出來ないやうでは矢張り寧ろ死んだ方がいゝかも知れぬ。死ぬのが厭なら貧乏するのが厭なら金を溜るがいゝとにかく貯金せざる勤勞は底の無い桶にせつせと水を汲み入れるやうなもので、働けば働くほど草臥ばかり儲かる。其の日、其の日取つた金を皆使つてしまつて一文無しになるやうでは、幾ら稼いでもおつつかぬ。いよ〳〵貧乏するばかりである。金を溜めるのに大切な心得が五つある。曰く儉約なれ、曰く經濟の考を高めよ、曰く克己心強かれ、曰く忍耐持久の心が強かれ、曰く獨立自活の精神に富めといふことである。

儉約について

此の五つを心の襷に掛けて幾ら僅かづゝでも貯へて行けばきつと金が溜る。千圓ばかりは直ぐ溜る　千圓溜めれば一萬圓にも直ぐ手が届く。

こゝで特に儉約といふことに就いて一言して置きたい。一錢二錢の金を節約して貯めるのは消極的だ儉約は消極的だなどとふい人があるけれども、考へ様によつては消極にも積極にもなる。百圓の金を銀行に預ると其の日歩が僅かに一錢位である。だから一錢の金を儉約したら百圓の金を銀行に預て日歩を取つたと考へるがいゝ。二錢の紙屑を賣らば二百圓の預金が生んだ日歩だと思へ。かう思へば心がのんびりして決して萎縮しない。儉約を消極一方に考へて物事にこせ〳〵するから心が萎縮し元氣が無くなるのである。積極的に金を溜めることは勿論いゝことであるけれども、手も屈かぬ遠い大きい儲け事を考へて居るよりは、手近い儉約の儲が貯金の大道ぢや。不意の

歌の眞意を味へ

儲は人の一生に滅多に得られず、たとひ儲けても二度と儲けられぬものである。そんな當てのないそらだのみをして居るよりはせつせと働き、身の程をよく守つて儉約し、幾ら僅かづゝでも貯金する方が安全である。或人の歌に

うか〳〵と暮す瓢と思ひしに
腰のあたりにくゝり目ぞある

とあるが、暮し方にも亦くゝり目が無ければならぬ。身のしまりが無ければ金は溜らぬものである。一錢二錢の金でも決して無駄に使ふな。底の無い釣瓶で吸上げた水でも其の滴りが積り積つていつか桶に滿つるではないか。即ち儉約は底無し釣瓶で水を吸上げるやうなものである。

(二)　必ず溜まる貯金の方法

さて金を溜めるには實際どうすればよいか。貯金の方法にはさまざまあるけれども、其の主なるものは左の通りである。

一、お初穂貯金

これはその年初めて出來た穀物・野菜・果實などを神佛に供へるのと同じやうに、收入のあつた度毎に其の幾割かを差引いて貯金するもので、一に天引貯金ともいふ。例へば月給取りなら月給を貰つた時に其の中から第一に分外を差引いてしまふといふ遣り方である。いろ〳〵の支拂をしてから貯金するといふ遣り口では豫定の分外がきつと足りなくなるものであるから、收入の中から先づ分外の貯金高を控除

し、其の殘りの金で食つて行く、家賃を拂つて行く、着て行くといふやうにするのが最も安全確實な方法である。

二、釣錢貯金

十錢で三錢切手三枚買ふと一錢の釣錢が來るし、カメリヤ一つ買へば二錢の釣錢が來る。此の一錢や二錢の釣錢を財袋に入れずに切手を買つて郵便切手貯金臺紙に貼付けるがいゝ。十錢以下の釣錢はすべて貯金に振向けた方が得策である。必ずしも切手貯金臺帳に貼付けるに及ばない。貯金箱を拵へて置いて二三錢の釣錢を受取つた度毎それに入れて貯へ、翌月の五日以前に全部取出して郵便局なり銀行なりへ持つて行く。

三、不用品賣上げ貯金

紙屑・新聞紙・古雑誌・古着等すべて不用品を賣拂つた時、其の賣上げた金を殘らず貯金するのである。僅かばかりの臨時收入であるけれども何年も溜めて行くと可なりの金になる。

四、つもりで貯金

いろ〳〵の買物をした時、高い物を買ふたつもりで其の差額を節約して貯金する方法である。例へば浴衣地一反一圓八十錢で買ふたなら、二圓で買つたつもりで其の差額二十錢を貯金する樣な遣り方である。品物は商人の言ひ値通りに買ふのは馬鹿正直といふものだ。下手な買ひ方である。言ひ値の一割なり二割なりを値切つて見ると幾らか負けるのが商人の常であるから、かうして安く買ふた場合は言ひ値通り定價通りに買つたつもりで其の差額を貯金するのである。割引特價などで買つた

場合も亦同樣である。電車の割引額、汽車汽船の割引額も此の筆法で貯金するがいゝ。例へば東京の電車なら片道六錢、往復十錢であるから、往復で買へば片道を二度買ふよりも　6錢×2－10錢＝2錢　卽ち二錢安い。それ故往復一枚買ふ毎に片道を買うたつもりで差額二錢づゝ貯金したら月に二三十錢は溜らう。毎日電車に乘る人なら月六十錢以上の貯金が出來る筈である。回數券を買つた時にも片道券を買ふたつもりで割引額を貯金すると、三十回券なら　6錢×30－140錢＝40錢　卽ち月に四十錢の貯金が出來るのである。自分の家に住んでゐる人は其の家を借りてゐるつもりで毎月家賃を見積つて貯金せよ。月五圓の家賃と見積つても一年に元金だけ六十圓溜り、十年では元利七百七十圓四十七錢一厘になるのである。

朝日を買つた時に敷島を買つたつもりになれば二錢の貯金が出來る。かうして二

二十年間禁酒すれば二千圓溜る

第八　金の溜め方

日に朝日一個吹ふとせば（12錢－10錢）×15×12×12.841179＝46.228圓即ち十年間に四十六圓二十二錢八厘だけ經濟になつて金が溜る。煙草などは吸ふたつまりで吸はずにその代金を貯金する方が得策である。假りに毎日朝日一個づゝ吸ふのを吸はずに二十年間貯金すれば 10錢×365×32.783137＝1196.584 即ちざつと千二百圓の貯金が出來る。晩酌の二合三合づゝ飲んだ積になれば一合代十一二錢宛の貯金が出來、飲んだ積で飲まなければ二三十錢の貯金が出來るから、二十年間禁酒すれば 20錢×365×32.783137＝2393.169圓 即ち二千三百九十三圓十六錢九厘の金が溜る。但し一合十錢、二合づゝの晩酌と見ての計算である。又出産祝、榮轉祝其の他の場合に他から貰つた品物や菓子果物、土産物の到物物なども、買ふたつもりで之を相當代金に見積つてせめては其の半額だけでも貯金するがいゝ。

分外のものを食はず、飲まず、見ず、着ず、買はず、聞く勿れ

ナロザートン曰く

飲みたい、食ひたい、見たい、着たいといふ慾望を押付けると餘程貯金が出來るものである。例へば親子蕎麥が食ひたくなつていよ〳〵蕎麥屋の暖簾を潜らうとする時、いや待てと甘い甘いといふのは舌の上にある瞬間だけだもの、それよりは貯金した方が身の安心、心の安心と思ひ直して貯金するがいゝ。すべて口舌の慾や見榮を張りたいと思ふ慾は我慢すれば幾らも我慢されるものである。鰻丼を食べたつもりで、酒を飲んだつもりで、芝居を見たつもりで、女義太夫を聞いたつもりで、新柄の着物を着たつもりで、懐中時計を買つたつもりで、かういふ贅澤なもの無駄なものを食はず飲まず見ず聞かず着ず買はずに貯金したら、それこそ驚くばかりの金高にならうと思ふ。英國のマンチエスターにブロザートンといふ大富豪があつたが、其の人常に曰く「我が富は事業の大いなる爲にあらずして、慾望の小なるが爲

なり」と。蓋し眞理である。慾に任せて無意味に不正當に消費するなら、どんな大金でも直ぐ盡きてしまふ。況して月幾らと定つた收入なら溜る處か直ぐ借金だ。

五、副業貯金

養鷄・養蜂・養豚・養兎・養鯉・養蠶、桑の栽植、果樹・藥草の栽培、鶉飼・推茸栽培仕立物・編物・刺繍・造花・機織・筆耕・家庭教師、琴・活花・茶の湯の師匠、煙草・雜貨の小賣、通信販賣等あらゆる副業・内職・賃仕事から生じた純利、純益を貯金するのである。片手間の副業の利益は決して生活費の補ひにせず、始めから無いものにして必ず貯金すべきである。

六、殘餘貯金

生活費は分度を立てゝ其の分内を之に充用するのである。生活費は少し注意すると決して不足するものでなく、無駄を省き節約して質素に暮せば幾分か殘餘が生するものである、此の殘餘の金を貯金するのである。殊に被服費・器具費・雜費の如きは毎月必ず必要なもので無いから、すべてその時必要のない費目の金は生活費の中から差引いて、必要の起るまで貯金して置くがいゝ。子供の學費の如きも子供が大きくなるまで毎月必ず貯金して置く方が萬全の策である。かうして溜めて置けば着物でも、道具でも必要に應じて買ふことが出來、子供が大きくなつて學校へ行くやうになつても、其の教育の爲に生活費が嵩んで來るといふ心配がない。

七、臨時貯金

これは盆・暮の二期の賞與・配當又は宿直料・特別加俸・年功加俸等の如き臨時の收入、或は全く當てにせぬ臨時の賞與或は懸賞金・原稿料・印稅・報酬・謝金等

の如き臨時の雜收入を貯金するのである。之等はすべて其の人の勤勞に對する報酬であるから甘い酒の一ぱい位飲んだり、妻子に着物の一枚づゝも新調してやつたりしてもよいが、決して其の全收入を消費せず、其の大半は必ず貯金するやうに心掛けなければならぬ。

八、昇給貯金

昇給した金額を貯金するのである。月給十八圓の人が二十圓になれば月々二圓の增收となり、二十圓の人が二十五圓に昇給すれば月々五圓の增收である。增俸したからとて直ぐ氣を緩めて贅澤し、十八圓時代も二十五圓時代も三十圓時代も三十五圓時代も其の貯金額が同じやうでは駄目だ。二圓なり三圓なり五圓なり、其の增俸額は之を無意味に消費することなく必ず貯金すべきものである。今度昇給したら其

の增俸額を貯金しようといふ人は、たとひ昇給しても亦昇つたならばと言ひ出していつまでも貯金が出來ぬものである。俸給が餘計になつたからとて月々の生活費は決して膨脹するものではない。二十圓の人が二十五圓に昇給しても矢張り二十圓時代の生活をやりつゞけて行けるものであるから其の餘分の收入五圓を貯金して行かなければならぬ。

今こゝに月收十八圓の判任官があつて二年後に二十圓になり、第一回の昇給後四年目に二十五圓となり、又三年後に三十圓に昇つたと假定し、其の增俸額を月々貯金するものと概算すると、十年間に

(20圓－18圓)×12×9.802114＝235.251圓

(25圓－20圓)×12×5.716892＝343.014圓

(30圓－25圓)×12×2.137025＝128.222圓

∴235.251圓＋343.014圓＋128.222圓＝706.487圓

即ち七百六圓四十八錢七厘となり、これだけ餘分に貯金が出來たことになる。之に前後十年間十八圓と見て月々二割づつ貯へた金18圓×0.2×12×12.841179＝554.739圓を加算すると、

706.487圓＋554.739圓＝1261.226　即ち千二百六十一圓二十二錢六厘ほどになる。

かういふ次第ゆゑ、たとひ昇給しても決して贅澤せずに以前と同じ暮しをつづけて餘分の收入を悉く貯金をすれば千圓位は直ぐ溜る。石の上にも三年といふ、せめて七八年も辛抱して、健康が保て體面が保てる程度に於て生活すれば、生活費は幾らも掛らないものである。

九、增收貯金

一般に商工業に從事してゐる人の收入は其の月其の年によつてちがふ。多い時も少い時もあつて一樣には行かないけれども、收入の多い時は分度による豫定以外に貯金すべきである。收入が多いからと言つて贅澤し貯金を怠ると少い時に困つて來る。月給生活者以外の人の收入はちやうど果樹に年切れがあると同じやうに其の收入に增減あるを免れぬものであるから、農家の備荒貯蓄の如く收入の多い時はそれだけ餘計に貯金して置て不景氣な時の用意に備へて置くことが肝要である。

十、記念貯金

個人の記念日、市町村の記念日、國民的記念日等に酒食の費を節約して貯金するのである。例へば家族の誕生・入學・卒業・婚嫁・出產・入營・除隊・仕官・榮轉・

壽宴・新宅等の祝や、三大祝日などに記念として貯金するのである。但し子供の誕生・入學・卒業等の場合は出世貯金に振向けてやつもていゝ。

十一、出世貯金

これは子供の名義で子供自身にさせる貯金である。一人前の人間として世に立つまで、小遣錢を節約させたり駄賃を呉れたり、褒美を與へたり、餘所から貰つた金を無駄使ひさせないだりして貯へさせるのである。親が子供の將來のためにする學資以外の貯金で、子供に勤儉貯蓄の美德を教へるにはこれが最もいゝ。だから初めの中は小遣を呉れたら半分は切手を買へ、報酬を受けたら貯金せよといふ風に教へ導いて、後には自發的、能動的に貯金するやうに仕向けるがいゝ。

貯金の方法には此の外いろ〳〵ある。義務貯金といつて官公吏教員等が毎月月給の一

割づゝ積立てゝゐる方法も行はれてゐる。或は無盡、賴母子講の如きも亦一種の貯金方法である。

(三)　引出す貯金と引出さぬ貯金

さて貯金は夫の名義でも妻の名義でもそれは勝手である。けれどももと〳〵千圓以上溜めるつもりで始めた貯金であるから濫りに下してはならぬ。少し金が溜ると直ぐその貯金を當てにして下したがるのは人情であるけれども、貯金は無いものと思つて決して下してはならぬ。併し時と場合に依つては是非金の必要なこともあるから貯金を二通り分けて、其の一つを出入れ自由にして置くがいゝ。即ち左の通り區別して置く方が都合がいゝ

永續貯金

通常貯金

一、永續貯金

千圓溜るまでは決して引出さぬもの。千圓溜つても引出さぬ方が尙結構である。

これには、お初穗貯金・昇給貯金・記念貯金の三つを積立てる。

二、通常貯金

これは病氣・出産・旅行・葬式・祭禮其の他必要に應じて引出すもので、釣錢貯金・賣上げ貯金・つもりで貯金・副業貯金・殘餘貯金・臨時貯金・增收貯金等を積立てることにする。子供の出世貯金は男の子なら嫁を娶るまで、女の子なら嫁入りするまで引出さぬことに定めて置く。

以上述べた事柄を基礎として月給三十五圓取りの家庭なら十年間に幾何の貯金が出來るか、一つ綿密に計算して見ようと思ふ。實は一日二圓を標準にして月六十圓取り

永續貯金とすべきもの

の家庭の十ケ年に於ける貯金を算出して見たいと思ふのであるが、一般家庭の收入はどうも月六十圓以下のやうであるから、まあ〳〵三十五圓標準にして計算しよう。但し六年目に四十圓に昇給したものと見て算出するのである。

一、永續貯金

1. お初穗貯金　は分度によつて收入の二割とする。卽ち月七圓の貯金である。

2. 昇給貯金　六年目に四十圓に昇給したのであるから、後の五年間は月々五圓づゝ餘分に貯金が出來る。卽ち月額十二圓づゝの貯金である。

3. 記念貯金　家族四人と見ても誕生祝のみが年に四度、それに三大祝日を加へると七度。一度の貯金額を五十錢としても年に三圓五十錢の金が溜る。

それ故十年の永續貯金ならざつと

(35圓×0.2×12+3.5圓)×12.841179=1123.603圓

(40圓−35圓)×12×57.16892=343.014圓

∴　1123.603圓+343.014圓=1466.074

即ち約千五百圓以上の金高になるのである。また

二、通常貯金

1. 釣錢貯金　は月に一圓出來るものと見る。
2. 不用品賣上げ貯金　は平均月に二十五錢と見積る。
3. つもりで貯金　は一ケ月平均五十錢と見積る
4. 副業貯金　夫婦とも何等かの副業、賃仕事などをやれば幾ら少くも平均月に五圓の收入はあらう。

5. 殘餘貯金　は平均月額一圓と見做す。
6. 臨時貯金　は彼是取交ぜて年に二十圓と計算する。但し增收貯金は月給取りには計算外に置かねばならぬ。かうして算出して見ると、

それ故十年間に於ける通常貯金高は

{(1圓+25錢+50錢+5圓+1圓)×12+20圓}×12.841179=1451.053圓　即ち千四百五十一圓五錢三厘となる。假に此の中から保險料・器具購入代其の他を差引いても千圓は殘らうと思ふ。故に之に永續貯金を加へると優に二千五百圓は溜つてゐるのである。また子供の出世貯金も月三十錢平均と見、五歲から二十五歲まで二十一年間には一人分が

30錢×12×35.303378=127.092圓　即ち百二十七圓九錢二厘となるのである。

永續貯金と通常貯金の加算

永續貯金と通常貯金を加算するともうすでに二千五百圓以上の貯金であるから、月三十五圓以上の收入ある人は十年以内に二千圓分限となり得るし、三十五圓以下の人も心掛け次第で同じく十年以内に千金の持主になれるのである。即ち年利五分、年二回利子を元に繰込むものとし、十年間に千圓溜めるには、年利二分五厘二十期の元利合計が二六・一八三二七四であるから、

1000圓÷26.183274÷12=約3.2圓

即ち月に約三圓二十錢ばかりづゝ貯金せねばならぬことになる。

（四）複利の計算

金を溜めようとするには複利計算の道に明くなければならぬ。そこで貯金の算出法

元利合計の求め方、其の一

を參考の爲に掲げて置かう。

一、一度に幾らかの金を預けて何年か据置く場合。但し年に一回利子を元金を繰込むものとす。

（例）年利五分にて金十圓を三個年預くるときは元利合計幾何となるか。

此の算式は

10圓×(1+0.05)×(1+0.05)×(1+0.05)=11.576圓

である。一般に年利をRとし、期間をnとすれば

元金×$(1+R)^n$=元利合計

といふ公式になる。

答十一圓五十七錢六厘

二、毎年始めに一定の金を何年間か續けて預け、年に一回利子を元金を繰込む場合。

（例）毎年始めに三十六圓づゝ三年間預くれば其の蓄積高如何。但し年利四分五厘とす。

答百十八圓一錢五厘

此の算式は

$$36圓\times(1+0.045)+\{36圓\times(1+0.045)\}\times(1+0.045)+\{36圓\times(1+0.045)\}\times(1+0.045)\times(1+0.045)=118.0148圓$$

といふやうに、一期間毎の利息が元金に加はつてそれが次期の元金となるので元金高は毎期始にだん〳〵增加して行く。即ち利息に利息が附くのみならず、

利息の利息に對しても更に利息が附くのである。此の計算法を公式に表せば、

$$\frac{年金}{R}\times\{(1+R)^n-1\}$$

であるから、之を前の問題に當てはめると、

$$\frac{36圓}{R}\times\{(1+0.045)^3-1\}=118.048圓$$

となる。然るに右の公式中の $\frac{1}{R}\times\{(1+R)^n-1\}$ の計算が非常に面倒である。次に示す所の第二表「毎始期に一づゝ貯へたる元利合計を求める貯金表」は即ち年利率と期間を假定して $\frac{1}{R}\times\{(1+R)^n-1\}$ を實際に算出したもので、極めて便利である。即ち之を此の問題に適用するには年利四分五厘三個年の元利合計は 3.278191 であるから、之を直ちに年金三十六圓に乘じ

36圓×3.278191＝118.0148圓

とすれば、求める所の答が出る。

尤も嚴密にいへば毎期末に預入れる場合は毎期の始めに預入れる場合よりも其の元利合計が少し割が惡い。卽ち毎期末に預入れた元利合計を求めるには

年金×{毎始期に1づゝ貯金したる元利合計÷(1＋R)}

といふ算式を用ひる。例へば毎年末に三十六圓づゝ三年間預入れ、年利を四分五厘とせれば、其の計算は

$$\frac{年金\times(1+R)}{R}\times\{(1+R)^n-1\}$$

となる公式を用ひるので、之を實際に當てはめると、

36圓×{3.278191÷(1＋0.015)}＝36圓×3.137025＝112.933圓

毎期末に一ヶ場合に於ける元利合計の公式

第一表　元金一に對する元利合計を求むる複利法

年利／期間	二分	二分五厘	三分
1	1.020000	1.025000	1.030000
2	1.040400	1.050625	1.069000
3	1.061208	1.076891	1.092727
4	1.082432	1.103813	1.125509
5	1.104081	1.131408	1.159274
6	1.126162	1.159693	1.194052
7	1.148686	1.188689	1.229874
8	1.171659	1.218403	1.266770
9	1.195093	1.248863	1.304773
10	1.218994	1.280085	1.343916
11	1.243374	1.312087	1.384234
12	1.268242	1.344889	1.425761
13	1.293607	1.378511	1.468534
14	1.319479	1.412974	1.512590
15	1.345860	1.448298	1.557967
16	1.372786	1.484509	1.604706
17	1.400241	1.521618	1.652848
18	1.428246	1.559659	1.702433
19	1.456811	1.598650	1.753506
20	1.485947	1.638516	1.806111
21	1.515666	1.679582	1.860295
22	1.545980	1.721571	1.916103
23	1.576899	1.764611	1.973587
24	1.608437	1.808726	2.032794
25	1.640606	1.853944	2.093778
26	1.673418	1.900293	2.156591
27	1.706886	1.947800	2.221289
28	1.741024	1.996495	2.287928
29	1.775845	2.046407	2.356566
30	1.811362	2.097568	2.427262
35	1.999801	2.373205	2.813862
40	2.208040	2.685064	3.262038
45	2.437854	3.037903	3.781596
50	2.691588	3.437109	4.383906

厘五分四	分　四	厘五分三	年期
1.045000	1.040000	1.035000	1
1·092025	1.081600	1.071225	2
1.141166	1.124864	1.108718	3
1.192519	1.169839	1.147523	4
1,246182	1.216653	1.187686	5
1.302260	1.265319	1.229255	6
1·360862	1.315932	1.272279	7
1.422101	1.368569	1.316809	8
1.486095	1.423312	1.362897	9
1.552968	1.480244	1.410599	10
1.622853	1.539454	1.459970	11
1.695881	1.601032	1.511069	12
1.772196	1.665074	1.563956	13
1.851945	1.731676	1.618695	14
1.935282	1.800944	1.675349	15
2.022370	1.872981	1.733986	16
2.113377	1.947900	1.794676	17
2.208479	2.025817	1.857489	18
2.307860	2.106849	1.922501	19
2.411714	2.191123	1.989789	20
2.520241	2.278768	2.059431	21
2.633652	2.369919	2.131512	22
2.752166	2.464716	2.206114	23
2.876014	2.563304	2.283328	24
3.005434	2.665836	2.363045	25
3.140679	2.772470	2.445959	26
3.282010	2.883369	2.531567	27
3.429700	2.998703	2.620172	28
3.584036	3.118651	2.711878	29
3.745318	3.243398	2.806794	30
4.667348	3.946089	3.333590	35
5.816365	4.801021	3.959260	40
7.248248	5.841176	4.702359	45
9.032636	7.106683	5.584927	50

厘五分六	分　六	厘五分五	分　五
1.065000	1.060000	1.055000	1.050000
1.134225	1.123600	1.113025	1.102500
1.207950	1.191016	1.174241	1.157625
1.286466	1.262477	1.238825	1.215506
1.370087	1.338226	1.306960	1.276282
1.459142	1.418519	1.378843	1.340096
1.553987	1.503630	1.454679	1.407100
1.654996	1.593848	1.534687	1.477455
1.762570	1.689479	1.619094	1.551328
1.877137	1.790848	1.708144	1.628895
1.999151	1.898299	1.802090	1.710339
2.129096	2.012196	1.901207	1.795856
2.267487	2.132928	2.005774	1.885649
2.414874	2.260904	2.116091	1.979932
2.571841	2.396558	2.232476	2.078928
2.739011	2.540352	2.355263	2.182875
2.917046	2.692773	2.484802	2.292018
2.106654	2.854339	2.621466	2.406619
3.308387	3.025600	2.765647	2.526950
3.523645	3.207155	2.917757	2.653298
3.752682	3.399564	3.078234	2.785963
3.996606	3.603537	3.247537	2.925261
4.256386	3.819750	3.426152	3.071524
4.533051	4.048935	3.614590	3.225100
4.827699	4.291871	3.813392	3.386355
5.141500	4.549383	4.023129	3.555673
5.475697	4 822348	4.244401	3.733456
5.831617	5 111687	4.477843	3.920129
5.210672	5.418388	4.724124	4.116136
6.614366	5.743491	4.983951	5.321943
9.062255	7.686087	6.513825	5.516015
12.416075	10.285718	8.513309	7.039989
17.011098	13.764611	11.126554	8.985008
23.306679	18.420154	14.541961	11.467400

第二表　毎始期に一づゝ貯へたる元利合計を求むる貯金表

年期／到期	分二	厘五分二	分三
1	1.020000	1.025000	1.030000
2	2.060400	2,075625	2.090900
3	3.121608	3.152516	3.183627
4	4.204040	4.256329	4.309136
5	5.308121	5.347737	5.468410
6	6.434283	6.547430	6.662462
7	7.582969	7.736116	7.892336
8	8.754628	8.954519	9.159106
9	9.949721	10.203382	10.463879
10	11.168715	11.483466	11.807796
11	12.412090	12.795553	13.192030
12	13.680332	14.140442	14.617790
13	14.973938	15.518953	16.086324
14	16.293417	16.931927	17.598914
15	17.639285	18.380225	19.156881
16	19.012071	19.864730	20.761588
17	20.412312	21.386349	22.414435
18	21.840559	22.946007	24.116868
19	23.297370	24.544658	25.870374
20	24.783317	26.183274	27.676486
21	26.298984	27.862856	29.536780
22	27.844963	29.584427	31.452884
23	29.421862	31.349036	33.426470
24	31.030300	33.157764	35.459264
25	32.670906	35.011708	37.553042
26	34.344324	36.912001	39.709634
27	36.051210	38.359801	41.930923
28	37.792235	40.856296	44·218850
29	39.568079	42.902703	46.575416
30	49.002678	45.000271	41.379441
35	56.301413	62.275944	69.007603
40	69.087617	77.663298	87.509537
45	84.554034	95.501457	109.484031
50	99.921458	116.180773	135.582837

分四	厘五分四	分五	厘五分三
1.040000	1.045000	1.050000	1.035000
2.121600	2.137025	2.152500	2.106225
3.246464	3.278191	3.310125	3.214943
4.416323	4.470710	4.525631	4.362466
5.632975	5.716892	5.801913	5.550152
6.898294	7.019152	7.142008	6.779408
8.214226	8.380014	8.549109	8.051687
9.582795	9.821114	10.026564	9.368496
11.006107	11.288209	11.579893	10.731393
12.486351	12.841179	13.206787	12.141992
14.025805	14.464032	14.917127	13.601962
15.626838	16.159913	16·712983	15.113030
17.291911	17.932109	18.598623	16.676986
19.023588	19.784054	20.578564	18.295681
20.824531	21.719337	22.657492	19.971030
22.697512	23.741707	24.840366	21.705016
24.645413	25.855084	27.132385	23.499691
26.671229	28.063562	29.539004	25.357180
28.778079	30.371423	32.065954	27.279682
30.969202	32.783137	34.719252	29.269471
33.247970	35.303378	37.505214	31.328902
35.617889	37.937030	40.430475	33.460414
38.082604	40.689196	43.501999	35.666528
40.645908	43.565210	46.727099	37.949857
53.311745	46.570645	50·113454	40.313102
46.084214	49.711324	53.669126	42.759060
48.967583	52.993333	57.402583	45.290627
51.966286	56-423033	61.322712	47.910799
55.084938	60.007070	65.438848	50.622677
58.328335	63.752388	69.760790	53.429471
76.598314	87.163966	94.836323	50.994367
98.826536	111.846688	126.839763	61.610028
125.870568	145.098214	167.685164	73.330564
158.773767	186.535664	219.815396	86.270990

年期／利間	五分五厘	六分	六分五厘
1	1.055000	1.060000	1.065000
2	2.168025	2.183600	2.199225
3	3.342266	3.374616	3.407175
4	4.581091	4.637093	4.693640
5	5.888051	5.975319	3.663728
6	7.266894	7.393838	7.522870
7	8.721573	8.897468	9.076856
8	10.256260	10.491316	10.731852
9	11.875354	12.180795	12.494423
10	13.538498	13.971643	14.371560
11	15.383491	15.869941	16.370711
12	17.286798	17.882138	18.499808
13	19.292572	20.015066	20.767295
14	21.408663	22.275979	23.182169
15	23.641140	24.671528	25.754010
16	25.996403	27.212880	28.493021
17	23.486205	29.905653	31.410067
18	31.102671	32.759992	34.516722
19	33.868318	35.785591	37.825309
20	36.786076	38.992727	41.348954
21	39.864310	42.392290	45.101636
22	43.111847	45.995828	49.092242
23	46.537998	49.815577	53.354628
24	50.152588	53.864512	57.887979
25	53.965981	58.156383	62.715378
26	57.989109	62.705766	67.856877
27	62.233510	67.528112	73.332574
28	66.711354	72.639798	79.164192
29	71.435478	78.058186	85.374864
30	76.419429	83.801677	91.989230
35	105.765189	118.120867	132.096945
40	1.44118923	164.047684	187.047990
45	194.245719	225.508125	262.335685
50	259.759438	307.756059	365.486351

となる。但し本書の諸表並に計算はすべて毎期の始に預入るものとしての公式に依つて算出したものであることを斷つて置く。

さて右の計算は何れにしても手數である。隨つてその簡便な表を右數頁に亘つて示して置いたから實際の便に供せられんことを望む。

別紙第一表の複利法を用ひるには下の如く使ふのである。例へば「金二十圓年利五分で銀行に預入れ十年後に引出すものとし、利子は年二回元金に繰込むとすれば其の元利合計何程か。」といふ場合には、預入れて置いた年數は十ヶ年であるけれども利子が年に二回元金に繰入れて行くのであるから預入れ期間が二十期となり、利子は二分五厘となる。故に求める所の元利合計は二十圓に年二分五厘二十ヶ年の複利を乘じたもの卽ち20圓×1.638516＝32.770圓 卽ち三十二圓七十七錢である。若し郵便貯金の如く

年に一回利子を元金に繰むものなら　此の表によつて年利と期間に應じた元利合計を見出し、それを元金に掛けさへすればいゝ。例へば年五分五厘の複利で金十五圓を七年間預けて置けばその元利合計如何といふ場合は15圓×1.454687＝2180圓　卽ち二十圓八十二錢とすればよいのである

第二表の用ひ方

別紙第二表の複利法は下の如く利用するのである。例へば「毎月三圓宛銀行に預入れば十五ヶ年末に元利合計何程積るか。但し年利は六分とし、半ヶ年毎に利子を元金に加へるものとする。」といふ時は、半年毎に利子を元金に繰込むのであるから期間の數は三十期となり年利率は三分となる。故に貯金表によつて年利三分三十ヶ年の元利合計が　49.002678　なることを知り、これを元金に掛ければよい。卽ち　3圓×12×49.002678＝1764.096圓　卽ち千七百六十四圓九錢六厘が求める所の元利合計である。又「毎年

四十八圓づゝ十年貯ふれば元利金合計何程か。但し年利五分五厘とす。」の如く利子を年一回元金に加へる場合は、貯金表によつて年利五分五厘十ヶ年間元利合計が　13.538498　なることを知り之を毎年の貯金高に掛けさへすればいゝのである。卽ち　48圓×13.538498＝651.228圓　卽ち六百五十圓二十二錢八厘が求める所の答となる。

五十年以上の貯金計算法

今度は五十年以上毎年一定の金を預入れる場合の計算はどうするかといへば、これは手續が複雜である。例へば百二十五年間毎年四十八圓づゝ預入れ、年利を五分とすれば其の蓄積高何程かといふ問題を解說して見よう。先づ百二十五年間の元利合計を求めるために百二十五年を五十年、四十年、三十五年の三期に分ける。そして五十期間の貯金與率に四十期間の複利與率を乘じ其の積に四十期間の貯金與率を加へると九十期間の元利合計になる。九十期間の元利合計に三十五期の間に複利與率を掛け其

の積に三十五期間の貯金與率を加へると百二十五期間の元利合計になるから、之を年金四十八圓に乘ずればいゝのである。其の他すべて此の例に倣うていゝ。卽ち

48圓×{(219.815396×7.03999+126.839793)×5.516015+94.836328}=447590.15圓　四十四萬七千五百九十圓十五錢　として計算するのである。

さて複利表は俗にいふ据置貯金の場合の計算に用ひられ、貯金表は月々又は年々等額の貯金をする場合の元利合計を求める計算に用ひて頗る簡便である。また貯金表を應用すれば、(一)千圓溜めるのに年利四分五厘の利子で毎月二圓五十錢づゝ貯金すれば何年掛るか、或は(二)七年間に千圓溜めようとして年利五分五厘で預けるなら毎月幾らづゝ貯金すればよいかといふやうに期間又は貯金額のあらましを目分量で概算することが出來る。卽ち(一)は月々二圓五十錢づゝ貯へるのであるから一年では三

確實な銀行に預金せよ

十圓溜る。千圓は三十圓の約三十三倍であるから、年利四分五厘で元利合計約三十三倍に相當する期間を求めて行くと二十ケ年といふ見當が付く。(二)は年五分五厘の利子で七年間に千圓溜めるのであるから、年五分五厘七年間の元利合計は約八・七倍になることを貯金表によつて知られる。故に 1000圓÷8.8=約113.7圓　卽ち毎年約百十三圓七十錢づゝ貯金すればよいのであるから、一ケ月分の貯金　113.7圓÷12=約9.475圓　卽ち九圓四十七錢五厘となることがわかる。

貯金をするには何處に預くべきか。郵便貯金は年利四分八厘で年一回利子を元金に加へる規定であつて、一度の預入れ額は十錢以上とし、領金總額を千圓までと制限してゐる。銀行預金に比べると利子の割合が悪く、拂戻に多少の不便があるけれども、政府の事業であるから極めて確實であつて取付にあふやうな憂は決してない。貯蓄

銀行の預金は郵便貯金より遙かに利子が高く而かも利子計算が年二回あるから利が利を生んで元金がずん〳〵殖えて行くばかりでなく、一口の預入れが一錢以上であれば幾らでもよいし、貯金額にも制限がなし、拂戻すに手數が掛らない。けれども多くは株式組織であるからよほど基礎の鞏固な、人物の確實な重役の居る銀行で無いと破産することがないともいへぬ。投機心の強い、相場に手を出すやうな重役の居る銀行は危險であつて、うつかり預金されぬ。往年大阪の北濱銀行や横濱の第七銀行が破綻したのは實に此の好例であるまいか。貯蓄銀行は隨分多いが、中でも東京貯藏銀行・帝國貯蓄銀行・村井貯蓄銀行・川崎貯蓄銀行・安田銀行・田中銀行・不動貯蓄銀行・第一銀行・第百銀行・森村銀行等は最も確實なものである。其の他各地方に於ける富豪連の組織してゐる銀行も確實であると見てよい。とにかく貯金を始める人は先づ銀行

の資本金・利益・支店・重役・執務振り等に就いて一應調査して最も安心出來る銀行と取引せねばならぬ。

要するに貯金は全く心の持樣であつて、收入の多い少いに關係がない。鐘淵紡績會社の工女の中に日給十四錢の時代から毎日二錢づゝ日掛け貯金を始め、給料が上ると共に少しづゝ貯金高を增して掛け、かうして二十年間一日も怠らずに溜めて來たので唯今ではすでに數千圓の貯金も有つてゐる人があるとは某重役の話である。かういふ次第で金は幾ら少しづゝでも永い間辛抱すれば必ず溜る、俄かに溜めようと思ふのは惡い。先づ氣長に百圓だけ溜めよ。元金百圓溜めさへすれば直ぐ五百圓となり千圓となるものである。また相當に金が溜つたなら、有望な會社の株券を買つて株主になるなり、或は勸業債券を買ふなりして大いに利殖の方法を講ずるがいゝ。

千圓以上溜めるにはどうすればよいかといふ問題は、これまで細々と述べた所によつて大抵解決がついたことゝ思ふ。卽ち收入に應じて分度を立て荒怠相戒め勸儉産を治めて怠ることがなければやがて其の企圖した通り晩かれ早かれ必ず千圓溜まる。しかし一代でやうやく千圓ばかりの貯金ではあまりに心細い。千圓溜つたら今度は一萬圓も溜めるつもりで從來の通り貯金を繼續してゆけ。元金千圓になれば元加利子が目に見えて大きくなるから、少し辛抱すれば一萬圓位の元利合計を得ることはさう困難なことではない

（五）永世据置貯金

かうして次ぎ〳〵に望を遠大にして行くと同時に、一萬二萬の小金は譯なくたまる

からと子孫のために殆ど永世的の据置貯金をしてはどうか。

われ〳〵は祖先の子孫であると同時に子孫の祖先であることを思はゞ、子孫の爲に計畫する所あつて然るべきではないか。曾祖父母の代も祖父母の代も自分の代も子の代も孫の代もいつも〳〵貧乏であるといふのはすべて子孫に對する考が幼稚だからである。自分が貧乏なら子供の代に富ませよう、それが叶はなければせめては孫の代に榮えさせようと希ふのが人情であらう。此の美しい人情を實現するには永世据置貯金を始めるがいゝ、五十個年までの据置貯金は第一表複利表によつて直ちに計算することが出來る。けれども、百年も二百年も三百年も永續して据置く場合の元利合計の求め方は他の方法によらなければならぬ　併し矢張り第一表を利用して計算するのである。例へば

年利五分にて百圓を百二十五年間据置貯金すれば其の元利合計何程となるか。

期間が五十期以上の場合の元利の求め方

といふが如く、期間が五十期以上の場合の計算は、先づ期間の數を五十以下の任意の數、例へば百廿五期なら五十と五十と二十五の三つに分解してその年率の相乘積を求め、之を元金に乘ずればよいのである。卽ち年利五分五十期の與率は十一・四六七四で、二十五期の與率は三・三八六三五五であるから、此の算式

100圓×(11.4674×11.4674×3.386355)＝44530.966圓　卽ち四萬四千五百三十圓九十六錢六厘

となり、求むる所の元利合計四萬四千五百三十圓九十六錢六厘となるのである。假りに自分が四十歳の時に子孫の爲に百圓だけ据置貯金すると、子の代を經て孫の代にはざつと四萬五千圓の身代となる譯である。たつた十圓の金を百年据置いても三千圓の元利を得られるのであるから、子孫の繁榮を希ふならば必ず永世据置貯金を始めよ。

自分の代がどんなに貧苦と闘つても、二世・三世・四世等の代には富み榮えさせたいものではないか。子孫が富むやうに榮えるやうに計畫してやるのは祖先に對し子孫に對する義務である。天地化育の德に報いる道でもある。要するに貯金は人生の連鎖であり、子孫繁榮の基本である。

第九　安全簡易一萬圓溜めるまで

どうせ溜めるなら百圓よりは千圓、千圓よりは一萬圓に標的を置くがいゝ。一萬圓の金があれば一家四五人の家族なら何もしないでも樂々と生活が出來る。

それならどすれば一萬圓といふ莫大な金を溜め得るか。其の方法は何人も與り聞きたい事であらうが、溜めるには溜める丈の努力が要る。第一の努力は先づうんと働いて（内職でも何でもして）先づ月收が百圓以上になるやうにすることだ。但し月收百圓といへば一寸普通の人殊に地方にゐる人や月給生活には望み難い無理な注文のやうであるけれども、既に一萬圓を溜める必要から努力したならば、月百圓の收入を得るには左程困難の事ではあるまい。殊に東京・大阪と言つたやうな殷賑な土地に住む人

なら、少し頭を使つて取る方法を講ずれば月百圓ばかりは易々たまるものである。第二には日常生活の上から悉く冗費を省いて無駄のない募しを立てること、第三には月々必ず其の收入の二割以上を貯蓄することである。此の三要件を遂行し得る人ならば貯金開始後凡そ二十年の後に金一萬圓也が我が物となるものである。

其の實行方法として毎月、月收百圓の二割卽ち二十圓を安全な郵便貯金にすると、其の年の末には元金が二百四十圓、利子が五圓二十八錢（但し年四分八厘の利率）合せて二百四十五圓二十八錢となる。そこで其の預金の中から最も安全な五分利付の帝國公債を買ふ。額面百圓の帝國公債の時價が九十一圓五十錢とし、その金を預金から引出して二枚だけ購入すれば、額面二百圓の公債の外に尙郵便貯金に六十二圓二十八錢殘る。以下次表參照してほしい。卽ち

表一　萬圓貯金

一萬圓貯金表

年次	預入れ種別	元金	利子	合計元利（殘金）
一年	一年の例	240.000	5.280	245.280
	公債二百圓買	183.000		62.280
	翌年利子		2.980	65.260
二年	當年預入れ	240.000	5.280	310.540
	公債利子預入	10.000	.200	320.740
	公債三百圓買	274.500	(2.210)	48.450
三年	當年預入れ	240.000	5.280	293.730
	公債利子預入	25.000	.500	319.230
	公債三百圓買	274.500	(2.140)	46.870
四年	當年預入れ	240.000	5.280	292.150
	公債利子預入	40.000	.800	332.950
	公債三百圓買	274.500	(2.800)	61.250
五年	當年預入れ	240.000	5.280	306.530
	公債利子預入	55.000	1.100	362.630
	公債三百圓買	274.500	(4.220)	92.350

二十年後に一萬圓

の如き方法を執つて行くのである。そして六年目に於ける郵便貯金の元利合計が四百九圓三錢になるから此年から公債四百圓づゝ購ひ且毎年同一方法で預金して行けば二十年後には額面九千四百圓の公債の外に、郵便貯金が八圓三十五錢殘存する勘定である、故に從前の例に倣つて四ヶ月だけ貯金し、それに公債の利子四百七十圓の預入れを待つて公債六百圓を購入すると、目的の正金一萬の外に郵便貯金の帳尻が九圓三十錢になるのだ。此の筆法をもつて、各自の收入相當に貯蓄活用して行けば、一萬圓位の貯金は誰にでも出來る。要するに安全で確實で而も有利な方法を執ることが何より肝要である。性急に短日月で溜めようと焦つたり、又は濡手で粟を摑まうとして投機じみた事をすると、飛んでもない失敗を招くことが多い。但し金の溜め方は人から教へられたよりも、自分の頭から案出した獨自獨創の方法に勝るものがない。

第十　世渡りの道

千圓でも一萬圓でも金を溜める方法はすでに之を說いたのであるから、各人その身分に應じ分度を立てゝ嚴格に守るがいゝ。こゝには生活上世渡りの心得となることを少しばかり示して見ようと思ふ。但し四角張つた倫理・道德を說くのではない。名家の手紙・遺訓などを引例して愚見を加へるに過ぎない。

(一)　子供を多く持ちて始めて人生が解る

世の中の人はみんな金持ちで、自分ばかり貧乏のやうに思はれるけれども、決してさうばかりでもない。恒產を有たない多くの人はみんな貧苦と戰ひながら金溜めの方

法に苦心してゐるのである、例へば

同病相憐む。同貧相助け申したきは山々に候へども、某氏へ返すべき金、終に今年は出來ず、諸拂も綺麗にはすまされず、醫者へは藥代のみやりて、診察料は正月にのばし、家賃も待つて貰ひ、十五圓の拂の處は十圓にし、若しくは五圓にし、餅だけつきて正月を迎ひ申し候、今年のみにはあらず、例年この通り也。貴兄も忍び難きを忍ばれたら、小生の例にならひて年を越さるべし。商人といふものは少しでも金の顏を見せさへすれば、あまりやかましき事は言はぬものに候。下宿ずまゐの書生が小說書きて人生に觸れるなどゝ申しても、それはほんの上ッつらの事、子供多く持ちて暮して後始て人生に觸れるべし。而して淸貧の中に樂天地を得るに至りて、始めて達人たるを得べし。これ富者より見れば負惜みなるべし。されどお互に

ありては眞理など、釋迦に說法はよい加減に切りあぐ。――(大町桂月)――の如きはよく世態を盡したものであるまいか。貧乏だからとて失望落膽せず、出來るだけ生活費を切詰めて暮せば暮せぬことのあるものではない。貧乏と戰つて溜めた金で無ければ、眞に金の有り難味かわからぬもの、淸貧に安んじてせつせと溜めよ。併し子が供多くなればそれだけ入費も多くなるから、一人身の內又は夫婦暮しの內にせつせと溜めるがいゝ。人間には金を溜め得る時代と、溜めたくとも溜め得ない時代とがある。

(二)　貧は福の神

貧乏に負けて年が年中心配顏してゐるやうな人は次の一文を讀め。

問　俗に貧は世界の福の神と申候は如何なる道理にて候や。

答　世の中の人殘らず富み候はゞ天地も其の儘盡き候ひなん。貧賤なればこそ五穀諸菜を作り、衣服を織出し、材木薪を伐り、鹽を燒き、魚を漁り、諸物を商ひ仕候へば、六月の炎暑を厭はず、極月の雪霜を踏みて鹽薪野菜などを賣り候事、富み候はゞ仕るべく候や。農工商も貧より起りて世の中立ち申候。たゞ農工商のみ然るに非ず。士と雖も貧を常として學問諸藝を勵み才德達し候也。生まれながら榮耀なる者は多く不才不德にして國家の用に立ち難く候。たゞ士農工商のみならず、國天下の大臣、國郡の主と雖も吉凶、軍、賓嘉の禮用を備へ、國土水旱の蓄を爲し、君に仕へまつるの役儀あれば富足ることあるべからず。上は天下の主と雖も、來を薄うして往を厚うし、天下の人民の生を養ひ、死に喪して、恨み無からしめ、且異

國の不意に備へ天運の凶年饑饉を豫め待ち給へば天下の財物の多きも天下の人のために御覽ずれば飽き足ることなし。其の上天下の主は第一に乏しく思召さるゝは賢才の人の鮮き也。堯舜も之れを憂とし給へり。寶は貧に生じ、知は謙に明かなる理、萬の物はみな無より生じ候へば、貧は世界の福の神といふ俗語は誠に人心の靈にて候。

問　然らば堯舜の民も貧乏を免れざるや。

答　貧しくはあれども乏しき事はなく候。人々分に安んじて願なければ身は勞して心は樂しめり。堯舜の民は康寧の福あるとは無理にて候。むかし田夫あり、毎日北に向ひて禮拜し清福を給ふといへり。其の妻笑つて曰ふ、軒には草茂り床には藁の席を敷き、身には荒き布衣を着て雜穀を食とす。夫は田畠に勞し、妻は食事に遑

無逸を本務とせよ

なし。餘暇あらば紡績織紝す。春より冬に至り旦より夜に及ぶ。是を清福といはゞ誰か福なからむ。夫が曰く、是みな賤男賤女の事也。我が身上萬の零落にもあらず本より賤の子にして賤の家に居り、賤の衣を着し、賤の食を食し賤の業を營むは天理也。好事もなきには如かず、思ひがけぬ幸は其の願に非ず。身に病なく家に災なし、達者にして暇なきは清福にあらずやと人言へる事あり。流水は常に生きて、溜り水は程なく死ぬ。柱には虫入り、鋤の柄には虫入らず。俗樂の遊は憂また從ふ。水腐り柱蝕むの苦しみ解けなければ、美味あれども彼の田夫の麁飯にも劣り、輕く暖かなる衣あれども寒さ傷むこと賤の布衣に劣れり。多くは病苦に堪へず、或は夭死す。能く思はゞ願ふべからず。人は動物なり。上天子より下土民に至るまで無逸を務とするは人の道也。——(熊澤蕃山)——

貧苦の一轉化は富有の樂地

寶は貧に生じ、既に富んで驕れば破滅其の身に至るべきを思ひ、保健上差支ない限りは疎衣粗食に甘んじ孜々として働くが何より大切である。家道が如何に苦しくとも開いた口に牡丹餅を願はず、無逸を本務とすれば富貴期せずして至るものである。貧苦の一轉化は富有の樂地であるから、今の身の貧乏を氣に掛けてくよ〳〵してゐるやうなことは決して賞むべきことではない。寧ろ其の愚一笑に値するに過ぎない。貧乏を心配するな。富や金は貧に生じるものであるから、たゞ眞面目に働け。行く先に理想を描いて一心に働け。世界の大富豪カーネギーも石炭擔ぎから身を起したではないか。貧乏や逆境に處して之に打勝たうと努める所に無限の力と愉快とが生じ、又豁然として新進路が開けて來るものである。

蓮の葉は丸く松の葉は細し

（三）澤庵和尚の明言

身の程を知りてつゝましやかな暮しを立てようとする者は次の手紙を味へ。

御手前萬事御才覺肝要に候。先書に何事も天道次第との御文尤にも候。其の分なる儀も候へども、たゞ天道より金銀米錢を與へたる事は無く候。人の才覺にて候。例へば一石の米を片端食ひはてゝ。其の時天道より借銀借米有るまじく候。何事も人間の業と御心得あるべく候。天道は此方次第のものにて候。世上申す天道は杳かに違ひ申候。古今に蓮の葉は丸く松の葉は細く候。其の如く我が身に應ずる天道をよく辨へ、少年の者は引きさがりて華麗をせず、大名はその程に身を持つ所則ち天道に任すと申候。百石取る身にて二百石取る人の體、天道に背

人は品々に世を渡れ

き、身に不似合の振舞をする人は一生貧乏神の責物にて候。鵜の眞似する烏は水に溺れて死する天道の罰にて候。鵜は鵜、鴉は鴉の働き、天道の本理にて候。かやうなる謂を知らずして、天道とばかり人毎にいうて寢てゐても、天道より食を與へられ候やうに思ふ事、大なる誤也。人は品々に世を渡る天道に候。然るに細工人も定規なくてはならざるものにて候。人は人を定規にするがよく候。但し我が心の樣なる人を定規にせば三五の十八にて候。分限を我と申さずして、身を持つ分別、よく摺切れぬ人と申す事にて候。杓子定規如何、貴殿のは御分限よりふり廻し手廣く見え申候。これは天道に背き候間、つまり惡しく候。半分笑止に候。我等申すこと違ひ申すまじく候。冬は寒きものにて候。若し暖かなれば明年涼しからず。夏暑からざれば秋萬事惡しく候。物事に位の正しき處が天道にて候。

十五夜の月を御覽あれ

大小ともに身の分限に應じて、十人抱へて然るべく候はゞ七八人の心持にて後悔少く候。月を御覽あるべく候。十五夜は圓滿に候へば一分づゝ缺け申候。これ人間の見せしめなり。

思へだに滿つればやがて缺く月の
　十六夜の空や人の世の中

此の歌至極の理に候。長文の體、むづかしく候へども、兄弟に生れあひ、御爲よく候へかしと是の如くに候。何卒ふうを御かへ候て、借金の無きやう御分別專一に候。親類に遠ざかり親しき知音に恨を結ぶも、多分貧乏にて候。

心だに誠の道に叶ひなば
　祈らずとても神や守らん

パルナム氏曰く

皆是にて候。尙後音の時を期し候。恐惶。――（澤庵和尙）――

實際生活は飽くまで分相應なるべき道理を說き諭したのが此の手紙である。花は紅柳は綠、雀はチウ〳〵、烏はカア〳〵、これが分相應の實相といふべきもの。烏が鵜の眞似をすれば水に溺れて死ぬと同じく、貧乏人が金持ちのする事を眞似ては身を滅ぼすに極つてゐる。つゝましやかに身の程を守れ、贅澤をするな。金使ひの荒いのも、貯畜心の乏しいものも元をたゞせば身分を辨へぬからである。米國の富豪バルナム氏は、「世界最大の富豪は百圓の收入を以て九十九圓九十錢の生活に甘んずるものであるが、世界最大の貧者は百圓の收入でありながら百圓十錢の支出をなすものである。」といつてゐる。誠にその通り、身分を知らぬ大雜端な人は僅かに十錢の貯金すら出來ず、却つて十錢の借金をせねば暮しが立てられぬといふ始末である。

（四）學びて富み富みて學べ

金持と學者を兼ねたい人は次の手紙を讀め。

七月七日の御狀昨十九日相達し拜見。出版局も隨分盛なり塾中教員の人も追々プラクチカルライフに志し、行く〳〵は出版局へ入る人も出來申すべく、海老名君、吉村君なども昨今半信半疑、出版局へ一心、仕官へ一心、スクールマストルへ一心、とつおいつ思案最中なり。　小生は斷然商買人たる事を勸め先づ稽古のため出版局へ入るべしと說得いたし居候。今頃官員だの被雇教師だのとて一年の所得五六百の目腐れ金を何に用ふるや。若かず商賣の稽古して活計の目途を樣々に用意せんには。足下も四屋君も江戸に歸らば何か商賣の稽古然るべく

商賣の稽古

と存候。宇和島縣の學校此度の改革にて必すよく相成候事にこれあるべく候。代人は幾人もこれ有り候間、成るべきだけの親切を盡し、永久立行く樣御盡力成されたく、天下の人悉く皆我が意に叶はんことを求むべからず、たゞ願ふ處は何處までも誠を盡し、力の及ぶ所まで論じて他の怒を促すこと無からんの一事のみ。

御歸宅の上はいろ〳〵御相談もいたし、四屋君へも御話下されたく、私の說は今の學者は讀書に耽るも酒色に耽るも其の罪は同じ。だゞ有眼の人物にして始めて讀書に商賣を爲し商賣中に書を讀み、學んで富み、富みて學び、學者と金持と兩樣の地位を占め、以て天下の人心を一變するを得べきなり。今我が社中に斯る人物甚だ少し。足下と四屋君は此度の同行にても一層の親を增したらん。共

に心事を談して我が輩とコールスを共に致したく、深く希ふ所也。何れ御歸京の上萬々御話致すべく、御兩人とも歸るなら早く歸るべし。右貴答申上げたく草々頓首。

七月二十日（明治六年）

——（福澤諭吉）——

これは故中上川彦次郎氏へ宛てた手紙で、所説なか〳〵傾聽に値する。僅かに千圓位溜めようといふ人には或は無理であらうけれども、遠大の希望を以て學問と貨殖の二途に志す人には此の説大いに參考にならうと思ふ。

（五）　辻待車夫の炯眼警語

荒木良太氏の貯金談といふ本の一節に金の使ひ方に就いて面白い挿話がある。其の

主要な部分だけ抄記して見よう。即ち此度は言葉を和げて

「車屋さん、車屋さんは貯金してゐるかい。」

「エッ貯金でげすて、エヘー。」

言葉尻に重味がある。そこで

「貯金をするにどうしたらよからうね。」

と眞面目になつて聞いて見た。車曳は暫く顏を見て居たが、思ひ當つたのか何か知らぬが、アハヽヽヽ　高笑ひをして、次の樣に話した。

「さうでげすな、まあ三年ですな。」

「フーン三年か。」

「三年でげす。石の上にも三年といひやすが、まあ三年の辛抱しなくちやなりませんな。」

「さうか。」

「三年辛抱さへしやすりや、後は眼をつぶつて居ても金は出來やすな。」

「フーン、どういふ風に辛抱するんだね。」

「どういふ風につて、旦那、俺等のこたあ旦那さんにや解りやしやせんや。」

「さうか、解らなくつもいゝから、言つて聞かしてくれ。」

「エヘ、、さうでげすな、まあ俺等は毎日いろ〳〵のお客を乘せやすが、お客の中には隨分變つた御人もありやす。」

「フーン立派さうな人も、貧乏さうな人もあるだらうな。」

身形のよしあしは當てにならぬ

「さうでげす。いろ〳〵ありやすが、其の立派な貧乏などといひやしても當てにやなりやせんな。」

「當にならんか。」

「なりやせん、まあ初めに何處そこまで幾らだとか何だかだと直段の掛合ひをやりますが、その時に此のお客は身裝は立派だが今に裏屋住ゐをせにやなるまゐと思ふお方もありやすし、又此のお客は身裝は古い物づくしだが今に身上を上げるお方だなゝどと大底見當が付やす。」

「フーンさうか。」

「俺等の商賣は客商賣でげすから、規則で八錢の處なら、お客によりやして十錢十二錢・十五錢・二十錢、も一つ上ると二十五錢・三十錢位いろ〳〵値をつけ

やす。さうしやすと旦那面白いものでげす。初めはお客がいかんとか、高いとか、いつもこれだけだとか何とかいひやすが、つまりは此方の思つた壺にはまつた値段に決ります。」

「成程」

「しかし中には隨分堅いお方もありやすが、大抵は俺等の思ふ通りになりやす。そこが俺等のつけめでげす。永年車を曳いて居れば自然とそのこつを覺えて來やすお客ていものは、申しちや濟みやせんが馬鹿なものでげすな。」

「フーン。」

「オイ何處そこまで幾らだ、ハイ十錢おやんなすつて。馬鹿いへ八錢でいゝ。此方もお客を見て付けた値段でげすから、さう來るのは決つていやす。そこで何とか

斯ういふ人は金を拵へる

文句をいふのは當り前ですが、言つたつて駄目でげすから俺はさつさつと八錢で曳きやすが旦那、お客の懐になつて見りや、十錢を八錢に値切つたのですから、つまり二錢の金が出來た譯でげす。直切らなけりや二錢といふ金もつまり損するのでげす。そこで俺は考へやすに、かういふお客はきつと身代を拵らへる人だと思つて、俺も車を曳きながら感心しやす。中には又十錢と申しやすと、ウンさうかといつてお乘りになり、お降りになる時にきつと十錢下さるお方もありやす。この方は値切るといふことを知らないお方で、かういふ御人はまあ身代は作らなくとも、どうなりやつて行けやすと思ひます。ところがこれと違ひやして、中には十錢と申しやしても車をお降りになりやす時に十二錢下さる御人がありやす。かういふ御人は迚も身代は出來ぬ。今に貧乏して難儀ををさるに違ひないと、金

斯ういふ人は金が出來ぬ

を貰ひやすが後で氣の毒でなりやせん。旦那まあ勘定して御覽なさいやし、値切りさへすりや八錢で濟むのに、値切りもせないのみか二錢の割增をして十二錢を出すなんて、差引四錢の金は死んぢまふぢやありませんか。八錢の物を十二錢で買ふ御人でげすからつまり三分の一でげす。三分の一の金を流してしまふのでげすな、幾らお取りになるか知りやせんが、まあ三十圓と見やしても其の三分の一十圓てものは流してしまふ御人でげすな。どうしたつて身代は出來やしやせんや。

又中には初めから値段の掛合ひもせず。向ふへ行つて二十錢なり三十錢なりの金を投り出して、さつ〳〵と行つてしまふ御人がありやす。これも旦那、値切りさへすりや八錢で濟みやすに、どういふ譯かこんな澤山下さる御人がありやす八錢と二十錢でげすから差引十二錢の金が流れて無くなつてしまふのでげす。あの御

人でこれ計りの金と御思召しませうが、俺等に取つては大變な金でげす。八錢と二十錢、丁度五分の三の損でげすな。五分の三といひやすと半分より少し上でげすな。あの人が百圓の月給取りとしやすと、その中の六十圓てい金は此の通りして消えつちまふのでげす。幾ら金持だつて此の調子で行つた日にや、物の一年も經たない中にすつかり零落れて仕舞ひやす。俺等はかういふ御人を見やすと、可笑しいより何より氣の毒でなりやせん。

「フーン。」

「餘つてゐる所には餘つて居るといひやすが、遣り方一つで三年たちや、あべこべになりやす。いくら餘つて居るといひやしても三年經ちや澁りまさ。いくら貧乏でも三年辛抱すりや芽が出まさ。アハヽヽ。」

——（貯金談）——

一事が萬事

金の使ひ方はやがて金の溜め方であることは既に說いた通りで金を溜めようとするには餘程金の使ひ方に注意しなければならぬ。此の車夫の話のやうに八錢で濟む所へ惜氣も無く十錢乃至二十錢を拂つていよ氣になつたり、一錢二錢の端金だからとて約錢を受取らなかつたり、商人の言ひ値通り金を拂つたりするやうなことは大いに愼まねばならぬ。一事が萬事といふことがある。大びらきつて大雜端に金を使ふ人は萬事につけて矢張り大雜端で締りがない。

（六）伊達正宗の遺訓

不自由を忍び我が儘な心を押付け金を溜めて、此の世を圓く安樂に渡らうと思ふ人は伊達正宗の遺訓を味へ。卽ち

信に過ぐれば損をする

仁に過ぐれば弱くなる、義に過ぐれば固くなる、禮に過ぐれば諂となる、智に過ぐれば嘘をつく、信に過ぐれば損をする。氣を長く心穩かにして、萬に儉約を用ひ金を備ふべし。儉約の仕方は不自由なるを忍ぶに在り。此の世に客に來たと思へば何の苦も無し。朝夕の食事甘からずとも譽めて食ふべし。元來客の身なれば好き嫌ひは申されまじ。今日の行おくり、子孫兄弟によく挨拶をして裝束の御暇申すがよし。

——（好古叢誌）——

と諫めてゐる。誠に面白い言葉だと思ふ。

（七）千圓貯金せんとする我が家計

婦女界第十五卷第三號に「千圓の貯金を得んとする我が家の家計」といふ記事が載